婦人衛生雜誌

大正三年三月二十日發行

第二百九十二號

[illegible]

婦人衛生雜誌

第二百九十二號目次

稟告

來四月の本會例會は休會し、四月下旬に於て總會及び懇親會を開催可致豫定に候間、左樣御了承被下度候

總會及懇親會に就ては追て御通知可申上候事

大正三年三月

私立大日本婦人衞生會

私立 大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずといへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相次て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの丶如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀りて一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を請ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸姉妹に告げ其賛成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿一年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を研究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

◎第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

◎第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

◎第四條　入會の所は姓名族籍住所及會員の[illegible]を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續[illegible]に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

◎第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす　終身會員は一時に金廿五圓以上、特別會員は一ケ月金三拾錢以上、通常會員は一ケ月金拾五錢を納むる者とす

◎第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし

◎第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

◎第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親族知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返與せず

◎第九條　本會に[illegible]員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす

◎第十條　本會に左の役員を置く
會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員三十名、書記若干名

◎第十一條　會長副會長幹事及評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託するとあるべし

◎第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受けて記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす

◎第十三條　臨時指名委員の件

◎第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ケ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す

◎第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

◎第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とす總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二囘會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし

◎第十七條　例會は學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を[illegible]し會員をして議京臨聽さしむるものとす

◎第十八條　會員は家族の者若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但[illegible]）

◎第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す

◎第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと

◎第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

◎第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

◎第廿三條　[illegible]收支は總て會計掛の[illegible]幹事の檢印を要するものとす

◎[illegible]ケ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし[illegible]支會

◎第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起[illegible]を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得[illegible]員にして支會を設立せんとするときは[illegible]附後員數增減あるときは其姓名を[illegible]本會[illegible]會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付[illegible]の規定に依るものとす

◎第廿七條　支會[illegible]を得

◎第廿八條　本會の雜誌に[illegible]り本會に送付すべし[illegible]亦同じ

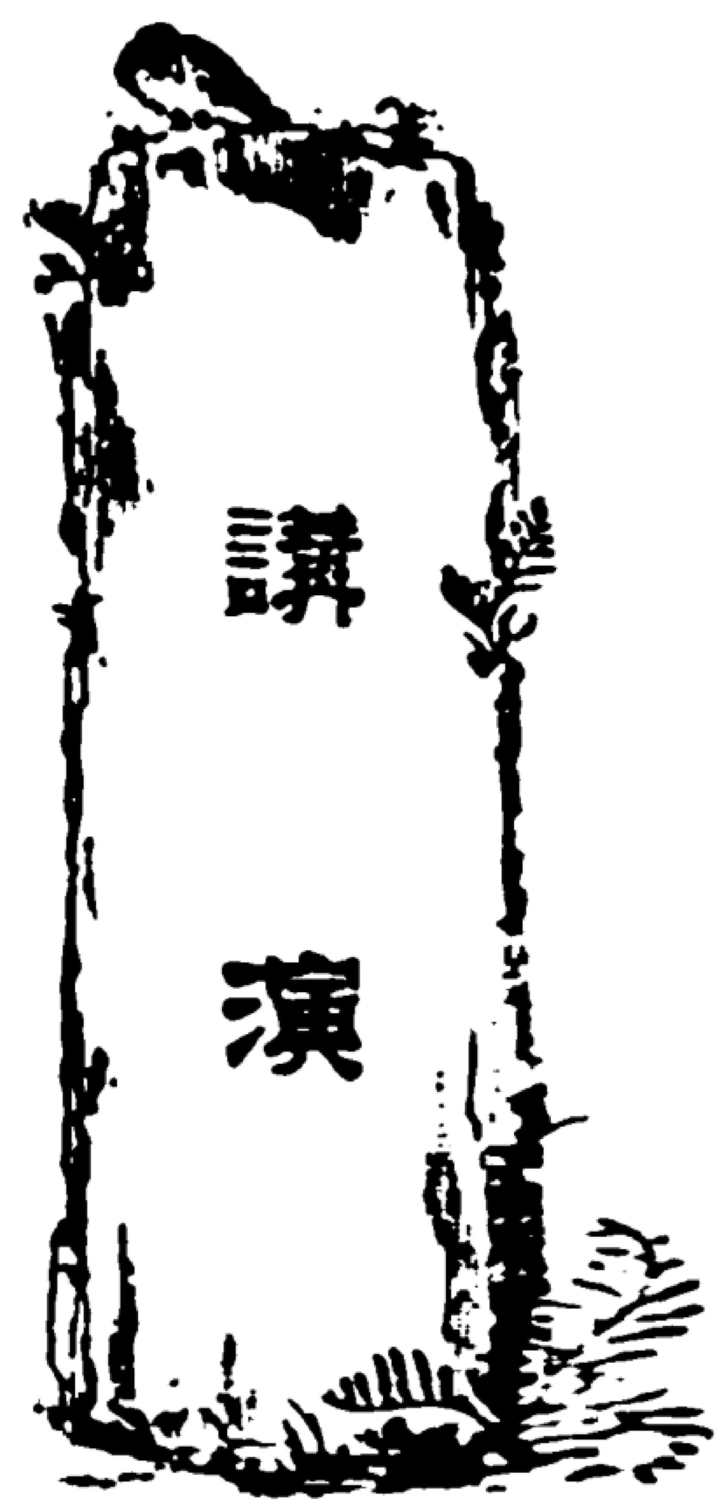
◎第廿九條　支會は[illegible]

◎第三十條　本會は每月一回雜誌を[illegible]

◎第三十一條　會員又は會員外の者にして[illegible]者あるときは本會々長の名を以て[illegible]登錄し[illegible]本會雜誌を以て報告す[illegible]すべし[illegible]設として別に返信料を添へらるべし[illegible]東京府下に限り每月領收人を[illegible]て郵便振替東京一〇六〇〇番本[illegible]

會員中若し本會の妨碍となるべき所爲あるか又は會費を[illegible]納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會



食事に就て

ドクトル　富士川游

今日は、講師に差支がありまして、私が代理をすることになりましたので、食事の衛生のことを御話致さうと思ひます。

通常衛生のお話と申しますと、あゝしては可けない、かうしては可けない、又さうしなければならぬと云ふやうに大變六ケしい叱言が先に立つやうでありますが、その實、衛生といふものはさう云ふ筈のものでない、衛生と云ふのは、つまり躾で、即ち一種の教育であります。凡て行儀作法が立派に出來れば、それが衛生の本旨に適つて居る、何が可い不可いと云ふのは、醫學の方で云ふことであつて、普通に衛生と云ふものゝ本旨は躾で達し得らるゝので、ツマり衛生は教育に外ならぬと申してもよろしい、それを御話する積でありますが、御分かりになり易いやうに、箇條を擧げて順次に御話致さうと思ひます。

一、**食物の種類**　一體、食物は何んなものが宜いか。これに就ては、先づ人間の齒を見ると、人間の齒は肉を食ふための齒と、それから野菜のやうな物を食ふための齒とがある、端の尖てゐるのが肉を食ふ齒で、圓いのが野菜を食ふ齒である。牛や馬などは草を食ふ齒を有て居り、犬や猫は肉を食ふ齒を有て居るが、人間の齒はその兩方があつて、何んな物を食ふても差支がない。又何んなものでも食はねばならぬ場合もあります。それですから、食物に好嫌があるのは不都合で、これは子供の時から躾をよくして好嫌をせぬやうにせねばならぬ。固より好嫌と云ふ

ことには、多少生つきもありますが、何んなものを食ふても宜いやうに、身體が出來て居るのでありますから、彼が好き是が嫌ひと云ふやうな子供にするのは、多くは親の躾の罪であります。

しかし、食物に好嫌があるといふことは、實際、生活の上にも、身體の爲にも不都合である。金が澤山あるものは、多少贅澤をして、自分の好きな物を食ふて、嫌な物は食はぬでも可いかも知らぬが、併しそうばかりは行かぬ、貧乏になれば矢張不味ものも食べなければならぬ、その外色々の事で好な物も食はれぬ場合がある。例を擧げて見れば、千八百七十年に普佛戰爭が始まつて、佛蘭西が負けて巴里の市が圍まれて、外から入る肉類が絶えてから、馬を屠つて食ふた、それも追々無くなつて、鼠、猫、何でも活きてゐるものを賣るやうになつた、斯う云ふやうな場合には、人間は何でも食べる、又食はざるを得ないのであります。

それで、子供の時から、物の好嫌をつけぬやうにする。何でも食べらるゝ習慣をつけることが必要であります、若し食べるものなら、木でも石でも食ふて可い——これは極端な話でありますが——人間に食べるものは食ふて可い、但し毒のあるもの、身體を害するものは不可ないことは無論であります。

二、食事を正しくすること　子供の時より食事を正しくすることは、極て大切なことでありますが、しかし我邦ではこの事がぞんざいになつてゐるやうに思はれる、赤坊に乳をやるにも、規則を守つてやるやうにしなければならぬ、一體子供の泣くのは大抵、話である、その泣く毎に乳をやるのは、畢竟これを育つる方に相當の敎育が無い爲である。子供の時より食事は規則正しくするものであると云ふ習慣をつけることは西洋では餘程正しいやうである。我邦では大人でも不規則で、十時頃に朝飯を食ふて、又十二時に晝飯を食ひ、夜中頃に晩飯を食ふと云ふやうな人も少なくない、これは多少其人の仕事の都合にも由るけれども、多くは習慣である、凡て子供の時

よりの善い習慣をつけるのが、大切であります。

三、食事の間隔　食事をして又何の位經てから飯を食ふて可いか、これは、醫學の方から云へば譯のないことである。食物が身體の内で消化して胃を出てから食べれば宜いのである、如何なる食物は何時間で胃を去るかと云ふことは、既に皆試驗が濟むで居る、永いものは五六時間位で胃を去るそれよりも永くまごついて居る場合は病氣である。胃より腸に行くことの一番早いのは水で、一合の水は一時間か二時間で腸に行く、同じく水のやうな形でも乳は長い。又卵は水に比べると半分、西洋の分量で云へば、二百グラムの水が、一時間で胃から腸に行くとすると、卵は百グラムと云ふ割合である、牛乳、スープ、炭酸水なども二時間位で胃を去る。永く時間のかゝるのは西洋料理のビーフステーキなどで、百グラムのビーフステーキが胃を去るには五時間もかゝる、豌豆なども永い、この長いものと短いものとの間になつてゐるのは飯で、米の飯は百グラムが三時間乃至四時間、先づ三時間半位で胃から腸に行く、ビスケット、麵麭も上等のものは、その位時間がかゝる。尙ほ輕く食ふときと、多くの物を澤山食ふとで違ふ、澤山副食物を添へて食べれば、何うしても五時間たたねば行かぬ。茲で問題が起る、一日の中で何時一番澤山食ふが宜いかと云ふ問題である、晝飯の時に澤山御馳走を食べる所もあり、夕飯の時に澤山の家もある、これはその處に依り、又その家々の都合にも由りますが、先づ晝飯に澤山御馳走を食べて、晩飯は少ない方が宜い、西洋でも普通そのやうである、特別の宴會のやうな場合には、これは大抵晩で、晩飯が澤山になるが、それは特別の場合で、普通は晝飯の方が多い。然るに近來は學校があるので、生徒は皆辨當を持て行く、所が、その辨當が大きいと、女學校などでは外聞が惡いと云ふて、小さな辨當を持て行く、而してその小さな辨當を早く食ふ、腹をへらして家に歸つて來て今度は澤山食ふ、これは身體の爲には勿論、敎育上からも氣をつけなければな

らぬ、晝飯の代りに小さな辨當を早く食ふて濟ますと云ふことは、これは改良を要することゝ思はれる、尤も昔は――昔と云ふても、そう古いことではない――三百年程前までは、食事は一日二度であつた、西洋でも又支那でも表向きは二度である。併しこれは矢張朝、晝、晩と三度食ふのが腹の爲には宜い、殊に日本の本土に於ては、日の具合が誠に宜いので、朝、晝、晩と三度食事するのが非常に都合が宜いと思ひます。

四、食物の分量○○○○　學問上から見まして、吾々が生活して行くには、何が幾ら、何が幾ら要ると云ふことを、やかましくいふのでありますが、何時かも此處でお話致したこともありますが、人間の身體は丁度蒸汽の機關のやうなもので、食物は石炭のやうなものである、つまり熱を起せば器械が働く、食物もその必要の熱を出すだけの分量を食へば宜い、何でもかまはぬ、必要の熱を出すだけの分量を食へば、それで可い。これは少し六ケしい話であるが、熱を測る單位にカロリーを用うる、カロリーと云ふのは千立方センチメートルの蒸餾水を攝氏の一度だけ溫める熱量であるが、靜にして居る時には先づ一日二千カロリーだけの熱が出る物を食へば宜い、働く時には三千カロリーだけの熱を出す物を食へば可いのである。分析表を御覽になれば、蛋白質が何程、脂肪が何程、含水炭素か何程といふやうに書いてある、その蛋白質は一グラムで四・一「カロリー」脂肪は九・三「カロリー」含水炭素は四・一「カロリー」の熱量を生ずるのでありますから、これから割出して、必要だけの「カロリー」を生ずる分量を採れば可い譯である、併しこれは理窟で、一々熱量を計つて食ふやうなことは出來ない、腹一杯食へば、それで宜しい、腹加減でちやんと適當の分量は分かる、これには赤坊の時から敎育しなければならぬ、――即ち躾が必要である。生れてから一箇月目には幾ら、二箇月目には何の位と云ふ食物の分量を定めてやる、さうすれば腹一杯と云ふその空き加減が定まる。この躾を

安にするも、腹一杯と云ふ加減が分からない、餅を腹一杯食ふて、その上に飯を食ふて又菓子を食べると云ふ風に腹加減が間違ふ。

胃には一定の大きさがあつて、大きな胃袋になると二舛位入る、好い加減に大きいのは七合位――非常に大きいのは、病的で食過の結果も少なくないのである。食過ぎて死だものもある、日本にもあれば西洋にもある。急に胃を膨らすと、それから病氣になつて死ぬ。胃の大きさ、腹加減と云ふものは、一定度のきまつたものであるが、それよりも多く――非常に多く食ふ人がある、これは子供の時よりの癖である。そんなに食べると腹が破れるなどと虚言を云はんでも、子供の時より、赤坊の時からちやんと躾をすれば、自然と腹の規則は定まるものである。

五、食ひ方　これも亦大切なことで、物を食ふのに咀嚼ことは必要であるが、餘り徐かに食ふては嚥込にくい、これは殊に病人はさうである、併し餘り早くても矢張嚥込めない、世間には早く食ふ人が隨分多い、これは大抵神經質の人である、學校　成績の良い子供などに多い、それで早食する子供には注意して緩くり食べさせる必要がある。胃は口から食物を受取つて暫時休む、その口から一嚥み食物を受取つて胃が休む時間は五十秒から八十秒である、それで一分間位づゝ間を置いて嚥込めば、胃は十分働くことが出來る、グイ／＼嚥込まれると胃が困る。斯樣な事も一つの習慣、作法で、文部省より出た作法の注意なども、これに外ならぬ、只別の言葉で云はれて居るだけである。

六、溫度　成人には種々の習慣があるが、赤坊の時から善い習慣をつける必要がある。熱いものは早く嚥込む、それで口の中の働が不十分である。冷たいものも矢張早く嚥込む、冷たいものは不快の感じがある。飲食物には丁度佳い溫度があつて、水は攝氏の寒暖計の十二度半が丁度佳い、二十一度になると不味い、生溫くつて味が惡い、牛乳は水と同じ溫度なれば大變冷たく感ずる、水は十三度、牛乳は十

八度位が一番味が佳い。肉煎などは温くないと味が佳くない、茶や咖啡は、も少し温くないと味が惡い、それから飯とか肉のやうなものは略ぼ體温と同じか或は少し高い方が味がよい、茶とか咖啡などは、これよりもずつと熱いが可い。これが爲に、總ての温度を測る寒暖計が出來て居る、尤も普通一々これで計るやうな面倒なことは出來ないが、赤坊や病人の爲には是非必要である、病人は自分には加減が出來ない、赤坊には教育的に、良い習慣をつけなければならぬ。齒の痛むやうな冷たいもの、又口を燒くやうな熱いものを食ふ人があるが、これは何方も宜くない、要するに食事の衞生と云ふことは躾けである。

七、作法『食するに語らず』とは昔から支那で云ふたことであるが、胃や腸で食物を消化するときには、其處に血液が多く行かねばならぬ、然るに若し食事しながら何か考事をしたり、話をするときには、腦や咽喉にも血液が餘計行かなければならぬ、近頃は飯を食ひながら一方で書物を見たり、新聞を讀むだりする人が大分あるが、宜しくない方法である、西洋の宴會などで、互に談りながら食ふと云ふことはあるが、これは口で物を食ひながら話すのではない、食ふた間に話すのである、胃を十分働かすには腦や咽喉の方を可成休めるのが可い、『食するに語らず』と云ふやうな昔からの作法も、大體斯う云ふ譯に外ならぬのである。

八、種々の誤解　今迄の所で、大體食事の話は濟みましたが、最後に附加へて御話して置き度いのは、食事に就て色々の誤解がある、腹が惡いから、輕い物を食べなければならぬとか、軟い物でなければならぬとか、これが滋養があるとか、樣々のことを云ひますけれども、斯の如き心配は健康のものには餘り必要のないことである。赤坊の時から正しい教育、善い習慣、躾があれば、自然に衞生的に食事が出來る、それを平素あらゆる不攝生をして、消化器を惡くしてから滋養物を食べたとて仕方がない。又病人と云へば、我邦では直ぐ食物を變へて、粥と梅

干にする、これは誤解である、醫師の方にも誤解があつて、矢張梅干に粥とすることもあるが、病氣だからと云ふて必しも食物を易る必要はない、尤も病氣に由ては絶食の必要なこともある。兎に角梅干と粥では十分榮養を取りにくい、左樣なことの必要な場合は極めて僅かである。怪我などをした場合に梅干と粥だけを食べて居れば、その創の方は治癒つても、衰弱が治らぬと云ふやうなことがある、これは注意を要することである。

又食品の良い不良いと云ふことにも誤解がある、蛋白質を多く含むでゐるもの、特に肉のやうなものは大變良いものと云はれ、飯や豆腐のやうなものでは榮養が足らぬと云ふやうに云はれる、併しこれも大體誤である。食品に依て、その成分の量は異るけれども、身體を保つ上には、兎に角只必要だけのカロリーが出れば何を食ふても同じことである、何を食べても宜い。市では食品の價は種々異つて居るけれども、榮養上に於ては餘り變りはない。西洋人は良いものを食ふて、日本人は不良いものを食べてゐるやうに云ふが、私は決してさうでないと思ふ、只料理が必要である、料理の仕方さへ可ければ何でも同じである。

それで料理の方法を良くして食ふ、分量は腹加減で宜い、時間を正しくして、適當に間を置き、正しく食ふ。凡て斯樣に食事の行儀作法を、兩親が赤坊の時から立派に習慣をつければ、別にやかましい理窟を云はぬでも衞生が出來る。衞生と云ふても、つまり敎育で、行儀作法の躾である。平素不攝生をして病氣になつてから養生とか衞生とか云ふと、泥棒が入つてから繩を綯ふやうなことをしても仕方がないどうか平素から、赤坊の時から良い習慣をつけるやうに希望する、さうしたいものであります。

叢談

花柳病と眼病との關係

醫學博士　小川劍三郎

花柳病と眼科の關係と申しまするに、それをもう一つ詳しく言ひまするに、淋病及黴毒と眼科との關係といふことになりますので、淋病と黴毒と二つに區別して御話をしなければならぬ。

先づ淋病と眼科とどういふ關係があるかといふことを御話しやうと思ひます。淋病のことを御話しまするに付いては三つに別けなければならぬ。第一に初生兒のこと、次に子供のこと、第三は大人成人性の膿漏性結膜炎、此順序で御話しまするが、年の順序に從つて初生兒のことから御話をいたします。

第一、初生兒膿漏眼　子供が生れてから卽ち初生兒の時期で二日目、三日目からして、早いときなら其第一日の日にもありますが眼に分泌物を生ずる、そして特にそれが大變に多いので膿漏性結膜炎と名けます。膿漏性といふのは、膿が漏れるといふ意味であります、水瓶か何かに小さな孔を開ける、その孔から水の漏れるのは幾ら拭いても〳〵盡きない滾々として盡きずといふやうな形容をしますが、幾ら拭いても盡きない、それと同じで膿漏性結膜炎は分泌が流れ出ていくら拭いても〳〵盡ぬものであります。是は隨分數ありまする病ですが、皆さん御存知になつて居る通り、クレーデといふ人はライプチッヒの産科醫者でありますが、此人が千八百八十一年に所謂クレーデ氏法と名付る豫防法を考案しまして、生れて初めて生兒が産湯を使ふときに二・〇「プロセント」の硝酸銀液を點眼するといふことを始めました。此クレーデ氏法が行はれてから總ての歐洲に於ける産院にての失明者の數が非常に減つた、從來

一〇%の失明者が〇・二%に減じた。大變に成績がよいので獨逸の聯邦の中でこの豫防法を法律上産婆規則の内に規定して若しそれを怠ると罰金に處するといふことにした所もあります、豫防することが出來ますがそれを怠ると、若し産婦が淋病であるときはよくこの病が起ります、之を完全に豫防すると初生兒の膿漏眼の爲に失明するものが無くなる。訓盲學校の如き又は大人では按摩のやうな者を集めて調べるとこの病の爲めに盲となつた者が澤山あることがわかる。既に日本で按摩と云へば盲といふことを聯想してよいが、さういふ風なものを調べると初生兒の膿漏眼の爲に失明して居る者が多い。獨逸盲院で三分の一は初生兒膿漏眼で失明したものが居るさうであります。日本では割合にそれより少し多い位でしやう。この初生兒膿漏眼はどうして來るかといひますると、其母親が淋病性の腟加答兒等に罹つて、尿道炎を患ひて居つて分娩をすると、胎兒が産れ出る途中で其所にある分泌物が眼に這入ることもありますし、或は生れてから取扱ひの際に子供の眼に入れるといふ爲に起つて來ることもある。かういふ危險があるから豫防法をおく必要があります、産婆の法律上の規則には必ずしなくてはならぬといふことにはなつておりませぬが産婆學の敎科書には書いてあることで、また實際やることになつて居る。産婆が生れた赤兒に御湯を使ふてやつたあとで二%の硝酸銀液の一滴を點眼する、なるたけ角膜にかゝらぬ樣にして結膜に點滴すれば宜しいのです、所が硝酸銀液でさへあればよろしいと思ふからして陳舊な液を用ひたり又は無暗に餘計に點眼したり、點眼したあとで生理的食鹽水で洗滌することをしないでたゞホンの形式に流れてをる事が多いそうですが、これは遺憾の點であります。

第二、小兒膿漏眼　次は小兒膿漏眼といふのであります。それは七八歳位或は十二三歳の子供で殊に女の兒に多い。それは眼脂が澤山出て來る、それを調べますると淋病菌がある、さういふのが隨分あり

ます。男の兒にもありますが女の兒が多い、膿漏性結膜炎に罹つて居る女の兒の膣を見ますれば大抵分泌物を出して居る、そしてそれが淋病性のことが多い、女の兒の膿漏性結膜炎は大抵自分の淋病から感染したものである。

第三、成人性膿漏眼　大人の淋病による結膜炎で大人の自分で持つて居る淋病の分泌物が眼に這入つて或は他人のものが這入つて來たりするによりて起る、即ち淋病の分泌物が直接若しくは間接に眼に入るによる。この病を俗に風眼といふ。風眼といふ形容は大變に適して居る。此風眼は急に起つて來るので、風といふものも靜になつて居る所に急に起つて來て、或る建物なりを壞はし樹木なりを倒す、其有様に能く似て居ります、それで膿漏性結膜炎のことを風眼と言つて居りますが急に大風が吹き來れるが如く何んともなかつた眼に急に病氣が始つて「カスム」「痛ム」「メヤニガ出ル」「腫レル」と大騷動が起つて、それで僅か二三日の内に全く眼が潰れてしまふことがあるからであります。初生兒膿漏性結膜炎は早く處置すれば豫後が良いのでございますが大人のは豫後が良くない、五十六十以上になつて居る人の膿漏性結膜炎は非常に豫後が惡るい。色々の治療をする方針もありますし、やり方もございますけれども、一番大切なのは其人の年齢が豫後に關係する。洗滌とか其他色々のことをしますけれども年が若いとどの藥を使つてもどんな方法をしても良いといふてもよいやうに癒りやすいのであります。

眼科の方では淋病と眼との關係と言ひますれば先づ淋病の爲に來る結膜炎を想像するのであります。然し結膜の外に眼の方で淋病の影響を受けますのは虹彩であつて輕い表層性の虹彩炎を起すことがある、重い虹彩炎はありませぬけれども、淋病の毒が血液の中を通して眼にやつて來て虹彩の表層に於て炎症を起すのである。淋病性結膜炎であつて膝關節炎を起すことも稀にはあります。

以上の三つに別れて淋病が主もに來る。所で其淋病

がどういふ風にして眼に傳染するかといふ徑路であります。それが必要である、今申したやうに早く見出して治療すると能く癒る。尚豫防すれば豫防の出來る病であるから豫防法を講ずるといふことは社會上必要のことである。然らば豫防法を講ずるにはどうすればよいか淋病の分泌物を直接若しくは間接に眼に入れるので來るとすればその傳染の徑路を研究する必要があり、それを知つておく必要がありまするから是れから色々の例を御話して見やうと思ひます。

(一) 淋病性結膜炎の傳染徑路　自身に淋病があつて、それを自分の眼にうつす人がある。それでありますから大人の淋病でありますれば左の眼より右の眼の方が多い、右の方の指にはどうしても不潔の物が付きやすい、淋病の黴菌を持つた分泌物が右の手に付くことが多いから右の眼がうつり易い、自身淋病を患ひて居る者が不知不識うつすことが多い、知つて居つてうつすことは少ない。(二) 併し知つて居つてうつすこともある。淋病のあるものが、態と故意にすることもございます、是は此問題には關係ありませぬが、兵營に這入ることが嫌だ、徴兵を免れやうとして自分で自分の眼の中に入れて失明して除隊をされやうとしましたが除隊されるといふ目的を達したが監獄に抛り込まれて却つて難儀したといふやうな譯になります。(三) 他人の淋病の分泌物を治療の目的に使用することがある、小便で眼を洗ふ風習が歐羅巴でも日本でもある。(日本では小供の小便が良いといふことを言ひますけれども) 此頃は申すものはございませぬが、昔時は一生眼を患はない豫防法として毎朝起きて小便をしたならば最後の一滴を指に付けて眼に點じて置くとよいといふたことがある位で眼病には小便は藥であると俗間で信じてをる。春さきで眼が霞む、淋病になつて居ることを知らぬで眼に注すと北爲に膿漏性結膜炎になるといふことがある、さすがに此頃は尠なくなりましたが以前は隨分あつた、私は三十一年に大學を出ましたが、

其時分には地方で患者から能く聞きました。子供が小學校で校醫に見て貰つたら「トラホーム」と言はれた、其親なるものが已れは良い方法を聞いてゐるからといふので自分の小便を子供の眼に注した、親が淋病に罹つて居つたから二三日して腫れ上がつて分泌物がドン〳〵出て來る眼科醫に診てもらう、家族の內に淋病に罹つて居る者がないかと聞くと、私が罹つて居りますといふことです、それではどうかしないかと聞くと、小便は大變眼によいといふことでございますから注してやりました、どうも癒くならないで却つて惡くなりましたといふて頗る平氣でをるといふ風なことがありました。(四)日本にはありませぬが、西洋では胎盤を眼の上に載せるといふ民間療法がある。胎盤を切つて眼の惡るい人がそれを載せて罨法すれば癒るといふのであります。胎盤でも淋毒のある人のだと傳染する。次には私が患者から聞いた實例を御話して見ましやう。(五)それは遠州にあつた事で榛原郡の者でありましたが、或る女が來て診て吳れといふことであつたが、膿漏性結膜炎で失明して居る。膿漏性結膜炎は角膜潰瘍を起して穿孔するといふと重いときには失明する事が多いです。其來た女は潰瘍が穿孔したので既に失明して居る、其來た人にどうしてそんなに眼が惡るくなつたかと聞いたところが、隨分無理な詮索でありますけれども段々聞き質しまするど、自分の奉公をしてゐた所のお神さんから前掛を貰つた、絹の新らしく下ろして餘り時が經たぬのを貰つた。それを使つて居つた、――元來日本の前掛は手拭にも雑巾にも使ふし、隨分不潔なものであるが――この前掛からうつりはしないかと思ふといふことで、其前掛を吳れたお神さんといふのはそれは極くひどい淋病であつて、始終「オリモノ」が出てゐたそうです、其分泌物を前掛で屢々拭いたことがあると見える。極く新らしい前掛を貰つて有難がつて居つたが、其爲に失明したのです。隨分難有いことではありませんか。(六)十一歲になる女の子供です、是は幾らもある例

ですが、備後かにあつたことです。（明治四十四年六月八日山陽新報）十一になる女の兒が家に獨で遊んで居つた所へ、近所に居る伯樂の男が來て、誰も居らなかつたから此子供をいたづらした、その爲に其子供が淋病に感染した、子供ながら恥かしく親達に話さずにをる內に其淋病からして自分の眼にうつつて膿漏眼になつた、さうして其女の子は遂に失明したといふのでございます。先刻子供の膿漏眼と申しますれば通常女の子に多いと申しましたが、十二三歲の兒でありますると大抵膣の加答兒があります。今の女兒の例の如くに直接に人にいたづらされるといふやうなことでなくて、單に局部を弄ばれる爲になることがあるのでございます。偶には男の子供にも同じ樣なことがありますが、その適當な一例があります。（七）靜岡縣の安倍郡にあつた事ですが、靜岡から七八里行くと大川村字坂の上といふ所がございます、そこの醫者が私が一昨年郷里靜岡の宅へ歸つてをつた時に或る患者を連れて來た。失明して居るがどうか工夫した

ら癒くならないまでも明るいか暗いか丈でも見る樣にはなりはしないかといふ事でありましたが、十三の男の子であつた。前と同で角膜の潰瘍があつて穿孔して既に兩眼共に眼球が萎縮して居る、全く失明したので手がつけられぬ。段々と聞て見た所が、連れて來た醫者の話に貧乏人の子供であつて、そこの家に居る男がありましたが、貧乏人でありますから夜寢牀に就くにはこの子供は其男と同じ夜具に寢かして居つた、さうすると其年を取つて居る方の男が小さい子供の陰部を弄んで居つた、毎晩かどうか知りませぬが、弄んで居つた。所が大人の方に淋病があつたので、いつとなしに大人の淋病を子供の方に傳染した。子供の尿道から膿が出る樣になつた、子供の事で人にも話さず、痒いときにはかきもする、知らぬが佛で其手で眼を擦つたりした爲に遂に膿漏性結膜炎になつた。靜岡から七八里も山の奧ですから眼科醫もなし町へ出て治療を受ける資力もなし、眼脂が出るといふので好加減の療治をして居つたが

それが爲にトウ〳〵失明をして仕舞つたといふのです。さういふ風に風俗を紊すといふことからもそんなことがある。時とすると不注意の爲に來ることがある。(八)明治三十三年の頃でありましたが「トラホーム」の喧ましくなり掛けたときに名古屋の或る小學校で「トラホーム」の檢査をしたことがある。「トラホーム」の檢査には上下の眼瞼を翻轉をして眼瞼結膜を見た丈では異常を認めないことがある、この時上眼瞼を二重反轉をして移行部結膜を檢するとここに明かに「トラホーム」性顆粒を認めることが屢々ある、それで二重翻轉といふことをする爲に硝子棒を使つて、一遍翻轉した上眼瞼をもう一遍ひつくり返すので。「トラホーム」檢査から言ひますれば叮嚀にやつた譯である。「トラホーム」檢査から言へば能く叮嚀にやつて呉れましたのだけれども、肝腎の硝子棒は始終同じものを使つて居つた。一本の硝子棒でやつて居つても能く一眼毎に消毒薬で洗つてやればよろしいが、同じ硝子棒を以てそのまゝで何人にも使ひましたから、「トラホーム」檢査が濟んで二三日經つと急に十二三人ばかりの膿漏性結膜炎が生徒の内に出來た。其時には大變に問題になつて小學校長が免職になり檢査に從事した校醫が辭職して片が付きましたが、子供の中の一人に膿漏性結膜炎の者があつたのを知らぬで段々とやつたから一人々々病毒を移植したやうなことになつたのだそうです。(九)眼科醫の所でも時に依るとさういふこともないとは限らぬ眼科醫者の家に行つて「トラホーム」を癒して貰はうと思つてをる内に膿漏性結膜炎にかゝつたなどといふこともないことではありませぬ。(十)私が岡山の縣立病院の眼科にをるとき近在の眼科專門の醫者が親子三人、お婆さんと主人と孫娘と入院して來たことがあつた。家族三人一遍に膿漏性結膜炎に罹つた、眼科醫ですから注意してをるに違ひはないがいつか缺點があつたと見えまして二人程膿漏眼患者を通院で治療してをる内に孫の七八歲の娘に傳染してそれからお婆さんに傳へ、それから主人

に傳へたといふ風に三人に傳染したのだそうです。(十一)眼科醫が診察の際眼瞼をひろげるとき涙と共に分泌物が醫者の眼に飛びこんで、その爲め遂に失明したといふ例もあります。(十二)洲崎の病院の醫員で診療中傳染した例もあります。(十三)ハイルボルンといふ人の「國家に對する眼科衛生の意義」と云ふ本に一例が載せてあります。千九百三年十月三十日に或る後家さんがやつて來た。左眼に義眼を用ひて居るが、其義眼を用ひて居る眼が痛んで困まる、眼脂が出ていかぬから見て呉れといふことである。診ると膿漏性結膜炎、風眼の初期であつた、手當をして歸したら翌朝後家さんの娘が來ておつ母さんの眼が痛んで仕方ない、迚も來る譯にいかぬから往診して呉れといふ、そこで娘に向つてお母さんの眼は膿漏性結膜炎であるが家人でだれか淋病をやつて居らぬかと何か心當りはないかと聞た。所がこの娘に私生兒があり、三つになる女の兒があるがこの女の兒が四五日以來膿性の「オリモノ」がある。この兒はいつでもお婆さんと寢る。この兒はどうしてさういふ風になつたかとハイルボルンが重ねて聞いたところが、其娘が言ふのには四五日前に階段の所で――獨逸の家は御存知でありませうが、澤山の家が一軒の建物の中にありまして階段を上がるといふのは長屋の路次口と思へば宜しい、年の大い子供と遊んで居つた時、其年の多い子供が棒を以て陰部を突いたそうだ、それから病氣になつたのだといふた。往診して入院を命じた、三週間の入院と僅か許りの通院とで全治した、其入院して居る中に原因を調べやうと思つて婦人科と花柳病科の專門の人に診させた所が、少しも其原因になるやうな病氣を持つて居らなかつたそこで原因を娘の方に尋ねゝばならぬので外の專門家に就いて娘の方を能く調べた所が、或る婦人科の答にはその娘は甚い淋病をやつて分泌物が多いといふことが分つた。それから段々調べたら實はこの娘が或る朝寢牀で三つになる子供の世話をして居つた、其時に子供が寢小便でもして居りましたか、

それを拭いてやる際に自分の淋病の膿を子供の陰にうつしたらしい。所が其子供は大抵はお婆さんと寢て居りましたが、或る日お婆さんが抱いて寢て居つた時子供の「ハンケチ」と自分の「ハンケチ」と間違つて使つた、其爲にお婆さんの眼に子供から傳染したのだそうでした。(十四)私の友人で今京都大學の教授をしてをる某君は二歳許の頃に東京外神田天神下に住んでゐて、毎日子守が連れて天神遊にいつた、その時分は天神に揚弓店が澤山あつたそうで、その揚弓店の店で遊んでゐたことがあつた、所である夏のことで、大變汗が出たといふので子守の女が揚弓店の店に放てあつた手拭で顔をふいて呉れたそうです。次の夕方とかになると眼が赤くなつて眼脂が出る。次の朝は澤山の膿が出る様になつたので眼科醫の所へ連れて行かれた。ドウモ風眼らしい家には誰れも淋病に罹つてゐる者はないのにドウシタものだらうと云ふので段々調べた處が例の矢場の手拭で顔をふいたといふことがわかつて子守はしかられる、モウ決して天神へは遊にいつてはいけないといふことになつたそうでした。この友人のは早く氣がついて治療をうけたから全快した。(十五)宿屋、料理店、汽車などでも共同の手拭、寢具などから傳染した例はいくらもある。

之を要するに淋病の膿を直接若くは間接に眼に持つて來ると今の膿漏性結膜炎になる。それでありますから、それを豫防するのには淋病の膿を外の人に傳へないやうに注意するのがよい。若し傳染したならば仕方ない、成るべく早くから適當に治療すれば隨分其病氣の豫後はよいから癒るのであります。

其次に黴毒の方でありますが、黴毒と眼病とはどういふ關係があるかと云へば、これは二つに別けなければならぬ。先天性黴毒、後天性黴毒と二つに別けなければならぬ。先天、後天性共に色々な形になつて現れて來る。

先天性黴毒の中で生れたときに現に變化が起つて居ることがある。虹彩炎による瞳孔義膜、瞳孔閉鎖症

或は網膜脈絡膜による色素性（非定型性）網膜炎。先天黴毒の人には畸形が多い、視神經缺損か、小眼球例へば小角膜、虹彩缺損症。其先天性黴毒の中で以て先程三宅君からも御話がありましたが晩發性と先天黴毒、初の中は異狀ありませぬが七つ八つ、十二三歳になつて起つて來る、其起つて來るにもいろ〱の形になつて起つて來ることがある。一番能く起つて來るのは角膜實質炎であります。

時に依ると角膜實質炎と同時に網膜、脈絡膜、虹彩毛様體等に炎症を起すこともあれども、後天性黴毒と眼とどれだけに關係することかといへば殆ど眼及其附屬器の總てが侵されると言つてよい。其中で一番餘計侵されるのは虹彩でありまして虹彩炎を起すことが一番多い。虹彩炎の患者があつたら黴毒と看做してよいのです。角膜にも例の角膜實質炎として後天黴毒が來ることがありますけれども虹彩、毛様體、脈絡膜この三を一緒にしたものを葡萄膜と言ひますが、これは主として眼の榮養を司どるものであつて殆んど全部血管から出來て居る。黴毒は御承知の通りどの器關であつても血管に變化を起すことが特有でございますから、眼の内でも殆んど血管のみより成つておる葡萄膜を侵かすことが多い。グレノー氏の三千六百二十二人の眼黴毒患者を調べた結果による葡萄膜の疾患が千五百六十六人、視神經疾患は八百八十七人あつた、眼筋の疾患が五百六十三人、其次の網膜が二百二十人、それから角膜が百五十人、それから涙器が十九人であつた、眼瞼及結膜炎は四十人眼窩の蜂窩織であるとか或は眼窩の骨膜といふものを侵かすのが八人で、鞏膜を侵かすものが七人、其他に色々の所のものを合併して百二十三人、といふ風な割合であつたそうでございます。以上の内で葡萄膜と視神經が一番餘計に侵される、黴毒による眼病は兩眼を侵かすことが多いのでございます。是は尤の話であつて、全身病の爲に眼の病氣を起しますれば兩眼を侵すのが常であります。眼科の診斷學で兩眼を侵すのは先づ全身病と考へるが

よい。黴毒も一種の全身病でありますから兩眼を侵すことが多い、シユベールトによれば三六%コッシユースによれば半數以上は兩眼を侵かす、特に複雜なる眼病を起すものに於てことに兩眼を襲ふものです。時とすると片眼しか侵かされぬことがある。黴毒に依つて失明する數はどの位かと盲人を調べて見ると十五乃至十四%である。是はウヰドマークといふ人が調べたのでございますが、斯ういふことは調査は所と種類(盲學校とか何とかいふ)ことに依つて違ひますけれども大體は分ります。グレノーは眼黴毒患者の死亡年齡を調べました。眼に黴毒の來るといふのは黴毒の內でも質の惡いものでございますが、眼に黴毒が來て死亡するのがどの位かと云へば四百二十八人調べた中で以て二十歳乃至三十歳は百二十九人、三十歳乃至四十歳は百五十八人、若しこの二を合算すると二十歳乃至四十歳は四百二十八名の中で二百七十九人の大多數になつて居る。眼に黴毒の疾患を生ずるやうな風になると先づ四十年あたりで死亡するものが多いと思へばよいのでございます。次に眼黴毒の患者數がどの位あるかと云へばアレキサンデルといふ人の調べたものに依りますると二一・六「プロセント」といふことです、かういふ統計は人により所により、病院によりて材料の異なるに從うて其結果が違うてくるものです、日本で私が多年眼科の實地に從事しておりまする經驗から何時とはなしに漠然と考へて居る所では、日本の眼科の患者は半分は「トラホーム」である。「トラホーム」を扱ふ數の少い人は上等の眼醫者である。眼科全體を平均して五十乃至六十%は「トラホーム」で、地方によると九九%位まで「トラホーム」を取扱つて居る人があると云てよい位で有ます「トラホーム」を引いた殘りの半分卽ち二〇―二五%は黴毒に關係してをるものでございます。さうすると今のアレキサンデルの統計と略ぼ一致します。黴毒の診斷は近來大變に進歩して來ましたが、從前はよくわからなかつたものですから信用の出來ぬ點もありますから新らしい

統計でなければ實は當になりませぬ、古るい統計を今の統計と一緒にする譯にいかぬのです。私が大學の學生であつた頃卽ち明治二十八九年ですが其時分の眼科の程度でありますれば、眼科醫者は沃度加里と水銀、甘汞だけ知つて居ればよかつたといつてよいかも知れない位でその他には硼酸水など少々知つて居ればよかつたやうなもので……私の助手の時分には外來診察室では沃剝、水楊酸水銀などの處方が印刷してあつてその紙を渡したものだ、患者の方で知つて居て向ふの紙を下さいと言つた位のものです。總ての內眼病患者は黴毒と思つて居つたと言つてよろしい其時分には眼科ではありませぬが診斷的驅黴療法といふ樣なものがあつた、少し變だと思つたら驅黴療法それでなかつたら吸收藥として水銀軟膏又は沃度加里をやる。驅黴療法と名前が付くか付かぬかの相違で同じ樣なことをやつた時代がある、今はそれほど簡單なことをやつて居るのでない。黴毒の診斷といふことは以前は確實な方法がなかつたので近年ワッセルマンの反應といふことが出て來て大變に正確になつて來ましたけれども、ワッセルマンの反應を試みて其成績が陽性であるときは黴毒だけれども、反應が陰性であるときは必ずしも黴毒がないとは斷言が出來ないことが隨分ある。先程の三宅君の御話と似て居りますけれども、一つの例を申しますれば、獨逸人で日本に三四年來て居る人がありましたが、其人が一昨年でありましたが、眼が惡るくなつて視力が障碍されたといふので或る眼科醫の所に行つて診て貰つた所が、眼底內に出血があつて一種の光澤を有して居る白斑が散在して居るといふので、是は蛋白尿性網膜炎だといふ診斷をした。其獨逸人は獨逸語を敎てる人でしたから且又此人が醫學生であつたといふ關係もあるので、自分の職業が醫學に關係のある學生に獨逸語を敎ふるといふ上から醫學上の知識も中々あるので蛋白尿性網膜炎なりとすると直き死ぬ、蛋白尿患者で眼底病を起した以上は二年か三年の中には死ぬと思はなくて

はならぬ。それには子供が一人あるが、自分は死んでもよいが、子供が心配だといふことで、器械を買ひ集めて尿の檢査を日々やつたが尿中蛋白を檢出せぬ。處で黴毒ではないかしらと眼科醫に話した所、その眼科醫はとんと取り上げて呉れぬ。友人と相談した結果その頃その土地ではワッセルマンノ反應を檢査する設備がなかつたので大阪に行つて櫻根君の處でワッセルマンの反應をして貰つたが其成績が陰性であつた。水尾博士に診察を乞ふたが稀な眼底病だといふので何ともいはぬ。そこで此患者は處置に窮して最後に余の所へ來た。診た所が蛋白尿性網膜炎に來るやうな白色の光澤を有つて居る斑點及び――出血點が眼後極卽ち黄斑部及其近傍に散在して居りましたが、尿の檢査上蛋白はなく、患者の既往病をきゝたゞすと此患者は十二年前にライプチッヒで「プボー」か何か出來た事があつて、そこでライプチッヒの「クリニック」で診て貰つたが、それは黴毒性の者でありはしまいかといふことを言はれたが、若しそれが禍を爲して居るのではないかといふことを言つて居りました。黴毒は血管を侵かすものでございますから黄斑部に行つて血管が黴毒性變化を受けて出血するしこの部の榮養が惡るくなつて退行變性をして網膜に白斑が出來たのだといふ樣な譯で黴毒性疾患と診斷して約一ヶ年驅黴療法をなして全治しました。眼科の方ではワッセルマンの反應がないから陰性であるから黴毒でないとすることはどうも出來ぬ、而して以前の私共の學生の時分には眼が惡るければ大抵黴毒と思へばよい位の處置をしましたが、今日では各種の診斷法も大分正確になつて來ましたけれどもワッセルマンの反應をやつて陰性であつたというて直に黴毒でないとしてよいかといへばさうはいかぬことがある。そして尚黴毒には毫も眼以外に身體的病變を見ぬことがあり、患者は毫も黴毒らしきものに罹つたことがないといふ人でも黴毒性眼病を起すことは稀でないので、所謂黴毒の第一期の症候が尠い樣な時に反て眼病になり易い樣な

氣がする。

黴毒は眼のドノ部分を侵すかといふに先天性では角膜、後天性で虹彩を侵すことが尤も多いのですけれどもその外視神經、脈絡膜、網絡、毛様體、眼筋、眼瞼ドコでも襲ふし、またその結果として硝子體溷濁、白内障といふ様な譯で眼の組織はどこでも侵されぬ所はないのであります。

黴毒性眼病と男女の關係グレノー氏に據れば男八十九に對する女五十五だそうで男に多い。

黴毒は全身病の一であつて其第二期か第三期に眼病となるのが通例であるが黴毒が眼に初發することがある。其比例は二〇〇乃至二〇〇〇身體他部に初發すれば眼には一例を見る、眼以外といふても生殖器に初發する者が勿論尤も多いのだけれども生殖器以外では口唇、胸部、乳房、口腔、指、手、扁桃腺、次に眼に來るので生殖器以外に初發するもの丶内の三乃至四・五%が眼に初發するそうです(ミュンヒハイメル氏)。黴毒がどうして眼に初發するかこの傳染經路は異物が眼に入つたのを「チブリ」出すこと、接吻(日本には稀ならむ)によるのが尤も多いので、次には小兒の眼病を唾液にてふいてやるとき、外傷(爪にて引搔くとか、嚙むとか)によりて來る、尤もかういふ機會があつても「トラホーム」、結膜炎、眼瞼縁炎、濕疹などを患ひてをる時は特に傳染し易いのであります。

眼科と花柳病との關係といふことは非常に深い關係を有つて居るものであります。花柳病、特に黴毒は眼に對すると總ての部分を侵すもので、その爲めには失明若しくはそれに近い視力障碍を來すことが多く、次では其人の作業力を減少するやうなことは非常にあるのでございます。

瘰癧に就て

醫學士　志田義三

瘰癧と申しますのは、漢方の方で古くから知られて居る病名でありまして、又非常に多い爲に誰でも能

く知つて居る病氣で御座います。卽ち頸の邊にグリグリの出來る病氣であります。

頸の處にグリ／＼の出來る病氣は種々ある。つまり頸部の淋巴腺が腫れるのでありますから、齲齒でも腫れる、黴毒でも腫れる、結核でも腫れる、ペストでは無論腫れる、樣々の病氣で此處の淋巴腺が腫れますが、こゝに瘰癧といふのは、腺病性の淋巴腺腫と申しまして、腺病質といふ一種の體質がある、顏が蒼白く、多少むくみがあるやうな風で、一體にぶく／＼して締がない、而して頭や顏に腫物が出來易く、鼻、耳、眼なども惡くなり易い、小兒に斯う云ふ體質のものが甚多い、さう云ふ所謂腺病質の小兒に於て頸部の淋巴腺が腫れる、これを腺病と云ひますが、昔から云ふ所の瘰癧は主としてこれのことであります。

然るにこの中には結核性の淋巴腺腫も含まれて居りますので、瘰癧の意味が重くなる、齲齒などの爲に單に淋巴腺が度々腫れて大きくなつたものなどは別に恐るゝにも足らぬ、腺病性のものも治癒る、唯だ結核性のものは治癒りません、淋巴腺の內の方に變化を起して膿を持つて參ります、初の間は皮膚の下の所にコロ／＼して居りますが、段々皮膚に癒着て、其處が赤く腫れて、後では破れて膿が漏れる、而かもそれがなか／＼治まらず、じく／＼してゐる、單純の腺病性のものなれば其處に醜い瘢痕を殘す位で治癒りますけれども、結核性のものになりますと、それが治癒らないのみならず、それからそれと珠數繼ぎに結核の病變が移つて行く、元來淋巴腺と云ふものは、頸の所ばかりではない、項の所、耳の後、頤の下から胸の內まで藷の蔓のやうに連なつて居る、股の附根の所にもあつて、足に傷をして、これが腫れることは屢々ある、ペストに罹れば、大抵これが先づ腫れて來ますが、これも腹の內まで縱いて脊骨の兩側に珠數を掛けたやうに繼がつて居ります、かう云ふ風に身體中に淋巴腺が在つてそれを淋巴管と云ふ管が繼いで居りますから、何處かに小さ

な傷があるとか病氣が在て、その病毒とか或は黴菌のやうなものが一つの淋巴腺に這入りますと順次にそれが次へ次へと移つて行つて同じ變化を起すものであります。即ち頸の淋巴腺に結核菌が這入つて、前に述べたやうな變化を起しますと、それだけでも隨分難儀ですが、打棄て置ては、それだけでは濟まない、珠數を爪操るやうに結核菌が、順次綱渡りをして胸の中の淋巴腺までも侵して行くのであります。これが一番恐ろしい。頸の皮膚の下に豆或は銀杏位の大さに腫れて。コロ〳〵してある中に手術して取つてしまへば宜しいのですが、それが皮膚やその隣近邊に癒著を起して、外に破れて、瘻孔を造るやうになつては、何うも始末が惡い、腺の中には生きた結核菌が這入つて居るのでありますから、これを外に漏らさぬやうに丸取りにして仕舞はなければ手術が確かでないのであります、大抵取盡した積りでも、後になつて又其の蔕から芽が出るやうに同じ變化が起る、而して遂に胸の方まで侵して行つたものと診斷がつけば、今日の所では先づ手がつけられないのであります。それでありますから、瘰癧の灸だとか、腐蝕膏藥だとか云ふものを用ひて、わざわざ破ることは感心しない、今日の醫學では禁じなければならぬことであります。結核性のものは何うしても早く手術をして除て仕舞ふことが必要である、止むを得ざる場合には、努めて榮養を良くする方法を取つて、加里石鹼などを塗擦して案外に效を收めることもありますが、兎に角醫師の診察を受けて可然方法を講じなければなりません。そのグリグリは果して單純のものであるか、腺病性のものか結核性のものか、但しはもつと性質の惡いものかと云ふことは、素人には一寸診斷はつきません、醫者でも往々困難な場合があるのであります。

腺病性のものは、普通に榮養が出來、普通に運動をして居れば、成長すると共に大抵自然に治癒するものではありますが、確かに結核に關係がないとは云はれず、又後に結核性に變することもあり得るので

ありますから、斯う云ふ體質の小兒は特別に榮養に注意してなるべく、新鮮の空氣中に運動せしめ、夏は海濱に連れて行て海水浴などを行はせることは特に效があるとせられて居ります、これは腺病の治療法ともなり、又結核の豫防法ともなることであります。

それから、尙ほ一つ茲に注意すべきことは小兒の頭、殊に髮を長くして居る女の兒の頭を不潔にして置きますと、頸の周にグリ〳〵が出來ることがあります、この場合に頭を檢査して見ると虱を發見することが頗る多い、これを知らずに瘰癧だと云ふて種々の療法をするが何うしても治らない、然るにこの虱に氣がついて、頭を清潔にして虱を悉く退治すれば、忽ちその瘰癧は全治して仕舞ふのであります。この外にも全身の淋巴腺が腫れる病氣は種々ありますが、それはこゝに述べる必要はなからうと思ひますから、略します。

妊產婦の飲食物に就て

醫學士　中村芳助

妊婦產婦の養生法に就ては勿論注意すべき事柄も澤山あります、例へば妊娠の半過になつてから汽車や車に乘ることは差控へた方が可いとか、產褥時には靜にして、特に清潔にしなければならぬと云ふやうなことは確かに必要な養生法であります、併し飲食物の養生法に至ては餘り八釜し過ぎて却て弊害があるやうに思はれる、殊に產科の學理が分からなかつた時代の傳說やら迷信やらが、附纏ふて居るので、甚だ宜しくない考が多いやうである、例へば妊婦が兎の肉を食へば兎脣の兒が生れるとか、生姜を食べれば指の多い子供が生れると云ふ類の迷信が非常に多い、此等は全く迷信であつて、豚を食へば口の尖つた兒が生れるとか、牛を食へば角の生へた子供が生れるなどと云ふ理窟は決して有り得べからざることでありますが、老人などが誠しやかに說きたて

るのを聞くと、妊娠して居る人は、僞である或は例の迷信であるとは思ひながらも、心持が惡いから自然種々の物忌をするやうになります、これが甚だ宜しくない、それで斯様な迷信に捕はれず、自分の身體並に胎兒の健康を保つ爲には、胎兒の榮養と母體との關係を明かに心得て居れば左様な愚説に惑はさるゝことはない筈であります。御承知の通り胎兒は臍帶で以て胎盤に連り、此處で母體の血液を受けて發育するのでありまして、母體の血液が榮養となるのでありやす、それでありますから母親が御飯を食べたからと云うて米粒が胎兒の體内に行く譯ではない、如何なる物を食べても、必ず一旦胃腸の中で複雜なる消化作用を經て血液となり、それから胎兒の身體の榮養となるのでありますから、兎を食べようが、鷄を食べようが皆同じく母體の血液となつて、始めて胎兒に行くので、決して鷄を食べても時を作くる兒も生れず、兎を食べたからと云うて兎脣の兒の生れる筈のないことが御分りになるだらうと思ひます、且つ妊娠は別に病氣と云ふ譯のものではありませんから、決して食物を變へる必要はない平素の通りの食物で宜しいのであります。その分量も特別に多く食べる必要はない、妊娠の初には大抵、嘔氣があつて、食も進まぬものでありますが、その時には無理に多く食べなくとも可い、四個月位か五個月位も過ぎますと。嘔氣嘔吐も止み再び食慾が進んで來ますから、其時は又相應に食べて宜しい、凡て自然に任せて差支ない、餘り養生法を工夫し過ぎて滋養に富むだ物を澤山食べれば丈夫な大きな兒が生れるだらうと云ふて、强ひて大食すれば、胃腸を害して却て反對の結果を得るやうなことになり、或は小兒が大きくなり過ぎると産が重くなるから滋養分は控へた方が可いと云ふて、わざ〳〵粗食減食すれば、母體は弱るが胎兒は普通に育つて、却て難産になると云ふやうなことがありまして、普通人の想像する如く、母親の食物が直接胎兒に影響して母親が倍量の食物を食べれば胎兒もそれだけ大きくなるもので

もありませんから、食物は平生の分量で宜しい、自然に食慾が進めば、消化器を害さぬ程度に多く食べて宜しいのでありあす。

又何を食べれば流産をすると云ふて妊婦を威かすものがありますが、これも大部分虚言であります、蕃椒や生姜を食べ過ぎれば無論消化を妨げますから宜しくはないが、流産をするなどと大袈裟なことを云ふべき程のことはありません、併し總て神經を刺戟し興奮せしむるやうなものは、妊娠中は先づ食べない方が可いのであります。それで酒や茶なども好きな人は少量づつ用ひても別に差支はありませんが、用ふる必要はない、又芋や牛蒡の如き消化の良くない瓦斯の溜るものは、餘り食べない方が可い、妊娠中は大きな子宮の爲に腸が壓迫されて居りますから、多少その働が鈍くなつて居るそれで、幾らか消化し易いものを選べば都合が可い譯であります、又瓦斯が溜れば苦しいから、この點からもお芋や牛蒡などは感心しないのであります。

尙ほ妊娠中、殊に初期の悪心嘔吐のある際には、一度に澤山食べようとしないで、五回か六回位に少量づつ食べるが宜しい、而してなるべく牀に就て靜に食べれば收まりが宜いものであります。

お産が過ぎて卽ち産褥に入つても、矢張特別に食物の養生法とては必要がない。然るにこれは昔の人は妊婦よりも一層嚴酷に飮食物を取締る癖がありまして、産後幾日間は鹽氣の物はいかぬ、脂氣はいかぬと云ふて、種々の食絶をさせますから、母の爲にもその乳を飮む小兒の爲にも仇をすることになります。これも實に理由のないことで、大部分昔の間違つた醫學又は迷信に基づいて居るのであります、但し産の終つた直ぐ後は疲勞して居り、食慾も減て居る、又今迄壓迫を受けてゐた腸が緩められる等のことより多少消化の具合に變がありますからなるべく消化し易い、滋養に富むだものを食べるが可い、卽ち牛乳、卵粥等は適當なものである、鹽氣も脂氣も決して斷つには及ばぬ、只多ければ消化を害するか

ら加減しなければならぬと云ふだけのことであります、而して四五日も過ぎれば胃腸の具合も整ひ、自然乳房も張り、食慾もついて來ますから漸次普通の食事にして宜しい、而して哺乳をするのでありますから普通よりは多少滋養に富むだものを餘計に食べるのが適當でありますが、此等のことも自然に母親の身體がそう云ふ風に教へますから、餘り理窟めいた事を言ふ必要がなからうと思ひます、それよりも却て種々な傳說や迷信に出る昔からの養生法を以て妊產婦を威かしたり、苦しめたりする方が惡い、これは是非癒めなければならぬことであります、斯樣なことは今日誰でも承知して居ることゝ思ひますが、古い習慣はなか／＼拔け難いもので現に未だこの流義が家庭の内に行はれて居るのを見受けますから、既に古い頭に固まつてしまつた人は度し難いとしても、將來の婦人の爲に敢て注告する次第であります。

近眼の豫防法

莊司秋次郎

健康と云ふことから申しますと、凡て療治は消極的で、健康が害せられたから、これを舊の通に恢復せしめよう、或は出來るだけ輕く濟まさう、又は何とかして生命だけ取止めようと云ふ、云はゞ鑄掛仕事である、なか／＼思ふやうにいかぬことは寧ろ當然である、即ち衞生の大切なる所以で、病氣に掛からぬ前にこれを防ぐことが何より肝要であります。

病氣には種々のものがありまして、放棄て置いても、身體自然の良法に由て、一定の時日を經てば自ら治癒るものもあり、一旦罹れば如何に手を盡しても救ふことの困難しいものもあり、又適當の治療を施せば覿面に效能のある病氣もあれば、幾ら療治を試みても殆ど效驗のない病氣もあります。近眼の如きは一旦近眼になれば再び舊の通りには出來ないのであります。

凡そ病氣を豫防し或は治療を施しますのには、その病氣の原因を突止めなければ確實な豫防法又は治療法と云ふものは出來ない譯であります。例へば種々の傳染病にしましても、昔のやうに確かな原因の分らぬ時代に於ては、疫病神の仕業として、種々の御祈禱をしたり、御符を貼付けたりしましても何の效能が無い、然るに今日の如く、諸種の傳染病には、それ〲病原菌があることが分かり、その性質も明かになれば　初めて確實な豫防法も治療法も出來て來るのであります。

當今は醫學が非常に進歩致しましたので、種々の病氣の原因或はその起り方も明かにされ、從つて豫防法も治療法も大分能く出來るようになつて參りました。併し未だ今日の所では、その起る理由の能く分からぬ病氣もなか〱あります。例へば彼の癌腫と云ふ病氣の如きは、病理學者が非常な熱心を以て研究して居りますが、今日に至るまで、何うも未だ確かな所が捉まらないので困つて居るような次第であります。

近眼、即ち近視と云ふ眼の異常に就きましても、近視とは如何なるものであるかと云ふことについては、既に十分明かにその理窟も分つて居りますが、扠て如何にして近視は起るかと云ふことは何うも明かでない、それで最近十數年間に於て、眼科の方でも隨分熱心に種々の學者がこれに就て研究を致しました結果、癌腫よりは見當がついた、少なくとも近視の起る誘因を審かにすることが出來たのであります。特に獨逸のコーン、キルヒテル、エリスマンなどと云ふ人々が、非常に澤山の學校生徒を檢査致しまして、近眼は大抵、學校の爲に起る、更に正しく言へば、學校で餘り讀むだり書いたりする爲に起ると云ふことに一致したのであります。生來の近眼と云ふものは極めて稀で、尋常小學校の生徒には千人に一人有るか無いかと云ふ位のものであります。

コーンと云ふ人の調べた所に據りますと、近視は學校の級が進む程段々多くなる、田舍の小學校の最下

級が一番少なく、それから級が昇るに從つて漸次近眼が多くなり、高等學校の最上級の生徒に一番多いと云ふことになつて居りますが、これは何處の國でも大抵同樣であります。それから眼を近寄せてする仕事を制限することは、近眼豫防の第一の方法であることも、一般に認められて居る所であります。

近眼を豫防するには、眼を物に近寄せてしなければならぬやうな仕事を制限するのが宜いと云ふことは分かつたと致しましても、さて吾々の今日の敎育程度を下げずに、何うしてこれを制限することが出來るかと云ふことになりますと、種々の議論が出て來るのであります。普通の學者のみならず醫家すらも、この近眼と云ふものは、高等の敎育、文明の犧牲として止むを得ぬものである、或は讀むだり書いたりする人が近眼になるのは一種の適應とも看做すべきもので、强ち病氣と云はぬでも可いなどと云ふ人さへもありますが、併し大部分の識者は、近視を以て國民の爲に忽諸にすべからざる禍である、從つて出來るだけの方法を盡してこれを防がなければならぬと云ふ意見を有つて居るのであります。實際輕度の近眼は左程困難も感じないやうに思はれますが、近視者自身は、時により折に觸れ隨分不便を覺ゆることがある、特に軍人などに於ては、射擊は勿論、萬事につけ不都合である、それで普通の兵士には近視者は採らないことになつて居ります。この近眼の多いのは兎に角學者とか思想家と云ふ人々で學者と眼鏡は附物のやうに思はれる。或人の調べによりますと、高等學校の上級生は、已にその三割乃至五割は近眼であると云ふて居ります。所でこの近眼と云ふものは、一旦眼が近視の狀態になりますると、段々惡くなるとも決して再び舊の樣にはならない、のみならず、これをその子孫に遺傳すると云ふ危險があるのであります。

尤も學校時代の近視は大抵弱度のものでありますが、併し將來その生活上に甚しい障碍を來す種がこゝにあるのであります。それで學校に於ては可成

眼よりも耳の方を利用するやうにして、書いた言葉又は印刷した言葉よりも、口の言葉の方を餘計に使用する方法を採るが可いと云ふことは當然の話で、尚ほ餘り役にも立たぬことを暗誦させるとか、讀書、書取などの時間も半分位にし、教科書には小さい文字を禁ずると云ふことが必要である。又遊戯及び體操は、全體に身體の組織を強くするものであるから、近視の豫防には大に效のあるものであると云はれて居りますが、なるほど多少さう云ふ理窟もある、併し私の思ひますには、これはそれよりも寧ろ遊戯や體操をするだけ、生徒の書物を讀むだけ書いたりすることが少なくなる、即ち眼を無理に使ふ時間が少なくなると云ふことが效があるのであらうと思ふのであります。永い間眼を無理に使へば、隨分身體の丈夫な人でも近眼になる、例へば彼の有名なゲーテとかビスマークなど丶云ふ人は身體も健全であつたが、非常な精力家だけに壯年時代から近眼になつた、近頃の我邦の學者でも、身體は非常に強健でありながら近眼の人はなか／＼多い、此等は何れも眼を無理に使つた結果であらうと思はれる。これに反して從來痲疹とか、西洋では又佝僂病の如き、凡て身體を弱らすことは近眼の起るに大變關係があるやうに云はれて居つたのですが、この臆說は間違つて居る、實際餘り關係はないのであります。

然るに吾々が眼を無理に用ふる近業を避ければ、一程度まで近視を防ぐことが出來ると云ふことは、經驗上誰でも認めて居る所であります、そこで、この豫防法には職業或はその人の嗜好と云ふことが頗る密接な關係を持つて居る。併し弱度の近視或は中等度の近視があるからと云ふて、誰もこれが爲に讀み書きを廢す人はない、故にこの豫防法は何うしても學校時代の問題であります、且つそれより後に起つた近視は普通餘り心配する程のものでありませんから、何うしても學校時代に氣をつけてこれを防ぐやうにしなければなりません。

こ丶に一つ注意すべきことは、近眼の兩親から生ま

れた小兒は、普通の人の小兒よりも著しく近眼になり易い傾があることであります。それで兩親が近眼な場合には、特にその小兒の視力に氣をつけて近視の豫防法を構じなければなりません。斯う云ふ近視の傾ある小兒には、その豫防法として凹面硝子の眼鏡を與へて、細かい物を見たり書いたりするときには、この眼鏡を用ひさせれば宜しいと思ふ。即ちこれで以て、近業に用する所の眼の機能を廢することが出來る、つまり眼を無理に働かせなければならぬ仕事を反復すれば近眼になるのであるから、その眼を無理に働かす分を眼鏡で補つてやる譯であります。例へば時計屋とか彫刻家とかは、その細かい仕事をするのに矢張凹面硝子の眼鏡を用ひて居ります、一體から云へば近眼になり易い筈の商賣柄であるが、餘り近眼にならぬのは全くこの爲であらうと云はれて居る。實際近視になり易い傾のある小兒に、斯樣な眼鏡を處方して居る眼科醫もありまして、未だ普通に行はれませんから確かな成績は分かりませんが、これで以て近視を大體防ぎ得るものと信ぜられる、併し通常近視の小兒に適當の眼鏡を掛けさせる時期を誤まる、學校などで、眼が良く見えない爲に成績が惡くなるとか、頭痛がして學校を厭がるとか云ふ迄にならなければ眼鏡を與へない、これは一つは眼鏡を掛けると反て近眼の度が進むと云ふ迷信がある爲であるが、前に述べたやうな理窟で適當な眼鏡を適當な時に用ふるのは、最も適當な近眼の豫防法で、度の進むのもこれに依て餘程止めることが出來る譯であります、但しこれには必ず精密に眼の檢査をして、醫師の經驗に依て適當の眼鏡を處方してもらふことが必要である、好い加減に間違つた眼鏡を選むでは害がある、而かもこれが爲に一旦惡くなつた眼は矢張舊通にはならぬものでありますから、氣を付けなければなりません。

兎に角近視と云ふものは一種の不幸である、これが爲に有爲の少年もその進むべき本來の道を進むことが出來ず、一生涯の方針を變へなければならぬやう

な場合も少なくない、甚しきは全く廢物同然の人となることもありますから、親たるものは、特にこれを防ぐことに意を用ふる責任があらうと思ひます。例へば散歩に出た際に兒童が時計臺の時計が何時だか分からないとか、普通の距離で電車の何處行か讀めないと云ふやうなことが氣がつけば、適當な眼鏡を與へ、又場合に依つてはその勉強時間を短くするとか云ふことに由て、その度の進むのを防ぐことが出來ます。尚ほこれは學校醫が注意をして吳れゝば親の爲にも小兒の爲にも大變都合が好いのであります。

育兒

小兒の呼吸器病と其の手當（一）

醫學士　宇都野研

氣管枝加答兒や肺炎が大人に比して小兒に多い事は誰も知つて居る事であるが、此等の病氣は手當の良否によつて重いものも治癒したり、輕いものも重症に變ずる樣な事が往々あるものである、故に素人の方々も手當の大體を心得て置くのが必要であらうと思ふ。

地上に立つて居る樹木を見ますと、幹があつて枝が分れて出て、其枝が更に又細かい枝に分れて、是れに木の葉が附いて居ります、人間の呼吸器も丁度樹木の樣に出來て居ます、幹に當るのが氣管、枝が氣

管枝、細かい枝は毛細氣管枝、木の葉は肺炎の時惡くなる肺胞に當ります。

普通呼吸器の惡くなる場合には幹、即ち氣管から變化を起し、其れが段々枝、小枝に波及し、遂に木の葉に當る部分を侵かして肺炎となるのであります。小さい子供であると、今申した樣に幹の部分だけで病氣が進行を止める事よりは、枝の方へ進んで行く事が多いのであります、然し學齡兒童位になりますと氣管だけに病氣が限局し、氣管枝へ類焼しないで濟むことが多い、斯く氣管が主としてたゞれ、氣管枝には殆ど變化がないか、又は僅かに變化の存する場合を

一、氣管炎

と申します、氣管炎の場合には隨分うるさく響きのある咳が出るものです、殊に夜牀に這入つて一寸溫まつた時、又は朝眼を醒ました時などに咳き入つて咯痰を咳き切らない中は止まなくて百日咳かと思ふ樣な事がある、さうして喉頭がいがらつぽい樣な感がする、日を經て分泌が增して來るか、又は病氣が氣管枝へ下ると、咳が餘程穩やかになつて來る、咳の外には健康時と大差はない、唯微熱のある事があります。結核性の氣管炎といふものもありますけれども、普通急に起つて來た氣管炎は直に癒ります。手當は多くは格別の事をせずとも直りますが、成る可く風に當らぬ樣にして、日光のよく照らす室に入れて置くがよい、熱がある場合には就褥した方が直りが早い、横臥て居る間は、胸に微溫湯で濕布をした方がよろしい、咳に對しては吸入をすべきである、殊に咳の煩さい場合には後に御話する樣な蒸氣室の中へ入れて置けば大變に樂になります。

（以下次號）

低能兒は何うして生れるか

低能兒と云ふのは普通の兒よりも腦力の足りない子

供を總稱するので、普通よりも少し劣つて居るものより、眞の白癡と云はるゝものまで種々の程度があるが、今假に總て低能兒と總稱することにして、斯う云ふ兒は世間に少なくない、精神病學者の調べに據ると、吾々が通常考へるよりも多いものである。低能兒は、その親にとりては實に氣の毒なものであることは申迄もないが、世の中の爲にも實に厄介な產物である、それで歐米諸國では近年頻りに低能兒の保護或は教育と云ふことに力を用うるやうになつて來た。これは我邦に於ても是非やらなければならぬ一大事業であらうと思ふ。今日はその家庭や社會との關係、又は保護教育などの大問題は差置いて、單に低能兒の生れる原因を數へ擧げて見ようと思ふのである。この原因に就て考へて見ると、多少自分にも關係があるからと云ふて、無益な苦勞をする人もあるかも知れぬが、それは餘計なことで、さう云ふ人は原因に鑑みて多少注意すれば可い、只子孫の爲に將た社會國家の爲に、なるべく低能兒の生ぜぬやうに、結婚その他一般の衞生上に氣を附くべき事柄が、これに由て分かれば結構である。

一、遺傳● 白癡或は低能兒の親を調べて見ると、既に精神の調子の變つてゐる人を發見することが多い、親が甚しい神經質の人であるとか、所謂世の中から變り者と云はれるやうな人なれば、その兒は必ず低能兒であると云ふわけではないが、さう云ふ危險があるものと思はなければならぬ。或學者は代を重ぬるに從つてこの傾向は強くなるものであると云ふて居る。

二、酒● 大酒家の兒に低能兒が多く出來る、これも酒を飲めば其子は低能兒になると限ぎつたものではないが、兎に角低能兒の親に大酒家の多いことは事實である、故に原因の一部分と見て可からうと思ふ。

三、黴毒● これも酒に劣らぬ低能兒の原因と認められて居る、親の黴毒の爲に一體に發育が惡いと云ふこともあり、又胎内で腦病に罹つたり、生れてから

後にも其毒の爲に腦や神經が惡くなることが多いから、これは確かに低能兒の原因となり得ることである。

四、**結核**、糖尿病の如き身體を衰弱せしむる病氣のある人の兒に低能兒が生まることがあると云はれて居る、これも有り得べきことで、畢竟その榮養が惡い爲に、身體も精神も人並に發育が出來ないものと思はれる。

五、**精神感動**　小兒が胎內に宿て居る間に、母親が非常に心配事をするやうなことがあると、低能兒が生るゝことがあると云はれる、私生兒に低能兒が多いと云ふ事實は、種々の事柄も關係して居るに相違ないが、この母親の苦慮と云ふことも間接に關係を及ぼすのであらうとの說である。

六、**難產**　以上は胎兒が發育するまでの間の事柄で、即ち遺傳とか先天性の原因とか稱せらるゝものであるが、次に生るゝ際に故障があつた爲に低能兒となる場合があると云ふ、即ち難產で、生るゝに非常に時間がかゝるとか、器械を用ひて引出すとか云ふ目に逢ふた子は、低能兒になることがあると云ふ、斯樣な場合には自然小兒の軟い腦髓にも故障を起すことがあるから、將來精神の發育を妨げることがあり得べき筈である、併しこれは近頃の研究によれば、昔考へて居つた程多い原因ではないと云ふことである。

以上は低能兒の生れる原因と目されて居るものゝ主なるものを擧げたのであるが、生れて後に、低能兒となればなるべき原因が加はるゝことがある、例へば頭にひどい怪我をするとか、腦膜炎を起すとか、其他育つ盛りに、種々の病氣の爲に甚しく發育が妨げられるとか云ふことが主な原因となる。それから近來は又內分泌異常と云うて、胸腺だとか、生殖腺だとか、腦の下垂體だとか云ふ腺の機能に變りがあつて、それから精神にも故障が起ると云ふことを唱へられる、此外にも原因か結果か、兩々相俟て起るか能く分からぬが、低能兒と密接の關係ある病氣

が澤山ある、例へば癲癇とか子癇とか云ふ痙攣を起す性質の病氣である。尚ほ親の大酒が低能兒の生れる原因と看做されることがあると同じく、小兒が酒を飲む爲に低能兒となることがあると云ふ、これは日本には餘り例のないことであるが、西洋の子供には隨分あるものと見えて、大分八釜しく云はれる。それから小兒が精神感動の爲に氣が變になつて、低能兒になり終ると云ふやうなことは餘り有り得べからざることであるが、併し生來精神の薄弱な氣味のある小兒を惡い境遇に置けば、自然下等な不良少年少女が出來て、本來の低能兒と餘り變らぬ程の厄介者になり得ると云ふことは事實である。

玩具に就て

高島平三郎

これは、高島先生が京都商品陳列所講演會でせられた御話でありますが、有益な御話と存じますから、請うて茲に掲載することと致しました。(記者)

私の知つて居ます名高い實業家が、自分の郷里の人を批評しまして、自分の郷里の者は捨石をすることを知らぬから困るといふことを話しました。其意味はどういふことかといふに、諸君が御承知の通り水を堰きますのに直ぐ石を下へ入れて、其上に積んで行きますれば水が來たときに倒れてしまひます。けれども遠くの要らない所に石を捨て置いて、段々土堤に接近するに從つて堅固に石を築いて行けば十分に水を防ぐことが出來ます。世の中の仕事も總て此の捨石をしなければならぬ。一寸見ると何も役に立たぬやうなことの中に、存外其事業にとつて大切な事があるが、我郷里の者はそれを知らぬでいかぬと云ふことを意味したのです。併し是れは唯其實業家の郷里の人ばかりではありません。私が考へますのに何うも一般に我國の人は捨石をすることを知らぬ者が隨分多いやうに思ひます。例へば諸君の從事して居られます所の玩具、或は人形などの仕事にいたしましても、直接にかういふ人形を拵へるとよく賣

れる、斯う云ふ玩具がよく向くといふやうなことは捨石どころではなくすぐに石を積むのであります。それ故それは十分役に立つには違ひないのでありますけれども、眞に玩具なり人形なりすべて其取扱つてをるところの仕事を盛にして、根柢から其基礎を築いて行かうといふのには、矢張り直接に必要でないやうな學者がまどろしいことを說き、詰らぬやうなことを云うてをる中に大切なことが存するのであります。然るに諸君は日本の實業家の缺點とせられてをる所の捨石をなしつゝある譯である。卽ち吾々の如き直接に商業などに關係のない者を招いて、話を聽かるゝのは諸君にとつて一の捨石で直接役に立たぬかも知れぬが、何時か諸君の參考になることがあるだらうと思ひます。

私が東京に居ります頃に、此方の手紙の中に人形に就ての話をしてくれといふ御依賴がありました、その頃丁度私は人形のことを調べて居つた際でありましたから、喜んで御承けをして人形を中心に、廣く玩具に亙つての御話を致したいと思ひます。それですからこれから申すことは、直接に諸君の御爲めになるかならぬかは分らぬが必ず諸君の事業に關係のあることでありますから、其のつもりで御聽きを願ひます。

一體玩具といふものは極めて早い時代から現はれてをるものであつて、文明國にも野蠻國にも亦歷史の未だない時、卽ち人類學的の研究をする時代より存して居りました。是は人間の天性として何か持つて遊ぶといふことが必ずある爲めです、大人でも子供でも殊に子供の時代には遊ぶのが其の生活であつて、遊ぶには何か無ければならぬ故、何物かを要することになるので、これは一の本能であります。それで今日遺つてをるものゝ中には、古いものは六千年も七千年も前の玩具があります。而かもその玩具には今日の文明國にあるものと違はぬほどのものがあります。是れ等は人類の本性がまだ開けぬ時も文明になつた後も一貫した要求が子供にある證據で

す。開けた世の子供も開けぬ世の子供も同じ順序を經て發達して來た故、その持つて遊ぶものは同じであることがわかります。今人形に就いて一例を擧げて見ませう。諸君も御承知の如く埃及は最も早く開けた國の一つになつてをりますが、其の埃及には大そて人體を大切にする習慣がありまして、大きな墓を拵へて「ミイラ」として肉體を後に傳へたものです。「ピラミッド」は昔の王樣の墓であるといふことでありますが、是等の墓を發掘して見ますと、其の中の「ミイラ」と共に出て來る物の中に人形があります。其時代にあつても自分の可愛がつて居る子供が死んだといふ時には、子供が大事にして持つて居た玩具を埋めてやつたのでせう、是れは世界萬國共通の親心でありませうが、其の中の人形には存外精巧のものがありまして、手や足を動かすことの出來るやうになつて居る物があります。或は又人形以外の玩具にいたしましても「クロコダイル」卽ち鰐魚を玩具に拵へて口が動くやうに出來て居るものなどもあります。是等のものは今日現に英吉利のブリッチシユ、ミユージアムに行つて見ると保存してあります。

希臘の時代にも、人形があつて、プラートン、スリストテレースが學問を説明するに、人形を使つて説明して居ます。人間の感情が非常に激して來て彼れが欲しい是れが欲しいといふことになつて來ると、前後も顧みずに酷いことをし、命を捨てるやうなことをするのも皆感情から起るのであるが、その強い感情を説明するのに、今の學者は恰も人形が綱で引張られて手や足を動かすやうに、生きた人形が感情に操られて行ひをするのであるといふて居ります。それですから希臘の時に既に綱で引張つた操り人形があつたといふ事がわかります。これは書いた物ばかりでなく實物もあります。さう云ふやうに古い時から巧な人形がありました。

又羅馬の時代になつてまゐりますと、木彫の人形が出來蠟細工の人形も出來た形跡があります。蠟は流

れるから遺つて居ませんが、段々研究するとさういふものがあつたことが分るのであります。さうして是等の人形に髮を植ゑるには、實際の人間の髮を用ひて、色々の形を造るといふやうなことが此時代に行はれたのであります。又羅馬には日本と同じやうな風俗があつて「ヴイーナス」或は「デイアナ」といふやうな神は守り本尊と云ふ風に一般の人が信仰したのでありますが、其の神に人形を納める風習がありました。日本にも淡島様といふのがあつて、女が布を納めると、縫物がよく出來るといふ迷信から納めることがありますが、恰も其如くに女が年を取つてきて、もう人形を抱いても居られぬと云ふ風になると、其神様に持て行つて納めるといふ風俗がありました。又羅馬には「カタコム」と云ひまして人間を澤山集めて葬むる所がありますが、其の墓の中から出た人形にはなか／＼精巧なものがあつて、材料にも象牙を用ひたのがあります。之れを針金で繋いで手や足を動かすことが出來るやうになつて居ます。

殊に面白いことは羅馬の時代にも矢張り子供が亡なつた後、人形を墓に納める風があつたことです、嘗て或所で子供が亡くなり籠の中に玩具や人形を入れて、子供の墓の上に置いてやりました。所が墓の土の中から一種の植木が芽を出して、其籠を段々通して上に出て花を開きました。それは何であるかといふと、「アカンツス」といふ草でありました「アカンツス」といふのは日本の薊によく似て居りますが、それが籠の上から葉を出して如何にも美しい形になつて居つた所へ、彫刻家が通りかゝつて見まして非常に面白く思ひ、斯う云ふものを柱の飾にしたら宜からうと云ふので、之れを飾りに用ひました。羅馬の家の建方は御承知の通りに柱を大變に尊重するのです。是は希臘の時代から來て居るが、大理石の柱の上に「アカンツス」の葉をつけたのです。それが羅馬の「コリンシアン、スタイル」と云いて一の柱の型になつたのですが。元は人形や玩具を墓に納めた其の中から出て來た「アカンツス」の葉によつて拵へた

のであると云ふ傳說があります。かく人形と美術とに關係ある傳說は甚だ面白いと思ひます。其「アカンツス」と云ふ草は今でも西洋では頗る尊重しますが、詰り羅馬で尊重したのが段々傳つたのでありませう、西洋の色々の彫刻に薊のやうな葉がついて居るのは皆「アカンツス」であります。

人形の歴史的研究は古い時から調べると色々面白い事がありますが、餘り斯う云ふことを話してをると長くなりますから略して御話致しませう。歐羅巴に人形の盛に行はれる樣になりましたのは、比較的に新しい事であります。前に述べた樣に古くあつたのが、中世は一般に人形を玩ぶことが中絶して居つたのです。十五世紀の初めに佛蘭西にシャール六世といふ王がありました。其頃ある伊太利人が澤山の人形を箱の中に入れて、方々の町を見せて廻つた事がありました。それは何故かといふと、名高い王とか大將とか女とかの人形を拵へて見せ物にして歩いたのです。それが廻り廻つてシャール六世の宮殿に參りましたが、非常に王の氣に入り、其の中から王が是非欲しいと云つて選ばれたのがありましたが、それではそれを獻ずると云ふやうな譯で、王の人形を愛玩されたものであるから臣下にも夫れが流行するやうになつて、我も我もと互に金を惜まず人形を買ふことになり、其の伊太利人は非常な財產を造りました、それが傳つて人形が一般に用ひられるやうになつて來たのであるさうです。それ故中世紀以後は佛蘭西の宮中から人形が行はれて來たのであります。是は誠に面白いことでありまして、日本の歴史にしましても、人形が行はれるやうになつたことは宮中が起原になつて居るやうです。

夫れから段々十六世紀、十七世紀と世紀の進むに從つて人形も精巧になつて參りました。人形は調べて見れば其時代の其國に於ける工藝が、どの位に發達してあつたかと云ふ程度も分る位に人形に重きを置いて造られて居つたのです。而もそれが唯玩具として用ゐられたばかりではなく、種々の事に應用され

るやうになつてきました。例へば流行を知らせるのには繪を畫くとか、説明するとか云ふ方法もありましやうが、繪では全體がよく分らず、説明では足りません。今日では男の著物は倫敦が流行の出て來る中心になつて居り、女の著物は巴里が中心になつて居るやうでありますが、さう云ふ中心になつて居る所から他國に知らせるのに、其時々の人形を拵へ其上に、新流行の著物を著せ帽子を被らせ、或は手袋その他の物を持たせると云ふやうに總ての流行品を著けて其儘送り、それを店に陳列して今年の流行は是れであると云ふことを示すのです。そこで最もよく一般に分つてそれが廣く行はれると云ふ風になつて來るのであります。此頃東京でも當市でも店に人形を飾ることは一般の流行で、女の髪の形、著物の工合などは大きな商店では必ず人形で現すと云ふ風になつて來ました博覽會でも大阪で開れた第五回勸業博覽會の時から人形を用ゆることが多くなりましたが、未だまだ日本の人形は進歩が足りません。唯其儘に置いてあつてそれが運動するといふことなく、且つ「エキスプレッション」(表情)に乏しいやうですが、活々した情の表はれてをる態度を造らなければならぬと云ふ人がある位です。全體人形を應用して博覽會なり商店なりに飾つてあると、之れを見る人に自分もあゝ云ふ著物を著やうと思ふ心を誘ふに最も有效であります。

十九世紀になつてからは護謨の人形或は羅馬の時代から絶えて居つた蠟人形等が出來ました。蠟人形は誠に進歩したもので中にも英吉利のが有名です。蠟人形を見て生きた人と間違へた者が少くありません、ロンドンで各國の人形が蠟で拵へてある所へ日本人が黒い面をして、立つて見て居たら、見物人が是を捉へて是も人形かと、云つて撫でたといふ程に巧に出來て居るのであります。十九世紀には一般工藝の進歩につれて、人形の製作もかやうに巧になつて參りました。

現在に於ては世界の方々で人形を造つて居ますが、

殊に面白いのは獨逸のチユーリンゲンのゾンチベルヒと云ふ所は木の人形を造るに最も有名であります。それは恰度京都が日本風の人形を造るに、日本全體の中心となつて居るやうに、木彫の人形は其處が中心となつて居るのであります。其處の人形は何故人々に愛せられるかと云ふと、如何にも面が平和である。其のエキスプレツシヨンが溫和しくて可愛らしいと云ふ情が起る。ゾンチベルヒは人情が質朴な所であつて殺伐の風がない。斯う云ふ所で造るから、自然と人形が溫和しく、優しい面に出來るのであると云ふことです。それは精神的の關係です、京都の人形が關東の人形と違ふのも此理由でせう。即ち京都の人形が如何にも優美に溫和しく出來て居ると云ふのは、人の精神が自然と人形に影響を及ぼすからでせう。人形を造るところの材料も色々進歩してまゐりまして、或は燒物で立派な物が出來、象牙でも出來、又布帛は勿論紙で造りブリキでも造るやうにあらゆる種類の材料を以て人形を造るやうになつて參りました。さうして又其の人形も面や形に注意する許りでなく、種々の動作をなさしめ、中には聲を出して挨拶するのもあります。「パッパー」とか「マンマー」とか（お父さん、お母さん）或は有難うと言ふのもあります。かやうに次第に機械力を用ゐて精巧なものが出來るやうになりました。

翻つて東洋に於ての人形の發達はどうかと云ふと、日本にも隨分古くから人形があります。前に御話した人類學的時代の貝塚から人形を掘り出すことがあります、併しながら此の人形は玩具に使つたものではないだらうと思はれます。多分信仰の爲めの物でありませう。即ち我々の優等民族の來る前、少くとも三千年前に日本に居つた「コロボックル」人種の間に行はれて居つた信仰の對象であらうと思はれますが、何れにしても簡單な人形が澤山出て來ます。夫れから我々優等民族の世となつてからは埴輪人形といふのがあります。是れ亦宗敎的意義に屬するやうです。人形を子供が玩ぶやうになりましたのは、

何時からかと云ふことは、歴史にも明かに現れて居ませぬが、先刻も御話したやうに人類が此の世に現はれて子供がある以上は、何物かを持て遊ぶのでありますから縦令歴史に現はれて居なくとも、我々の祖先が幼い子供に種々の物を持たせて遊ばしたに違ひありません。けれども昔は人形とか、玩具とか云ふやうな物には重きを置いて居ないのと、氣候風土の關係からちやんと古い物で遺つて居る物が殆んど無い。即ち埃及のやうに數千年前の物が遺つて居るといふやうなことが少ないのであります。併し日本の古い人形や玩具の事の調べば私の専門でもありませぬ故今は略して置きます。

支那はどうであるかと云ふに、西洋人の中には支那には人形はあるが玩具ではない、芝居の人物を表はしたに過ぎないと云つて居る者もありますが、支那でも北と南とは違ひまして、滿洲には子供の玩具として造つた面白い人形があります。中に鉋屑を入れ上を布で包んで而もそれが固く出來て居り、子供が玩ぶによい大きな人形があります。南には芝居の人物を模した像のやうな物が多いのです。併しながら**總ての玩具は殆ど其本を支那に發せぬ物は無い**といふても宜い程です。今日の精巧の物は取り除けさしまして、自然に任して置いて子供が喜んで遊ぶやうな物は殆で總て出發點は支那であると云ふても宜いのであります。吾々が日本固有の物であらうと思つて居る物もよく調べて見ると概ね支那から參つて居ります。それ故支那は世界に於いて玩具の創作せられた國の一つであると云つてよい。其他印度にも朝鮮にも特種の人形があります。瓜哇のやうな所にも種々面白いものがありますが、是等は總て略して置きます。

全體人が人形を造る動機に二つの方面があります、一は子供を愛する心よりその喜んで持て遊ぶ物として造るのであります。又一は前に申しました信仰の意味で人形を神とか佛とかして尊敬する爲に造るのです。此方は概ね人類學的比較宗教學的研究に屬す

る方であつて、開けない國には人形は神聖な物と定めて、活きた人と同じやうに取扱つて居る者が澤山あります。露西亞の種族の中には人形が壞はれた時には、どうして血が出ないかと云つて不思議がつた者があると云ふ話であります。伯剌西爾では人形を拜んで居り、黑人の中にも人形を拜み或は食物を備へるものがあります。ボルチオの土人なども生きて居る人と同じやうな取扱をすると云ふことです、斯う云ふ風に調べて參りますと現在の野蠻人の間には、人形を人と同じやうに思うて取扱つて居る者が幾らもあります。是は丁度子供の心と同じやうな狀態であります。未だ十分に精神の開けぬ者でありますから、生物と無生物とを明に區別することが出來ず、外形の類似せる人形を生きた物と同じやうに見てしまふ薄弱なる心から起つて來るのであります。是が人形を一の不思議な物、即ち神樣であるとか、佛樣であるとか、或は偉ゐ人の代表であるとか云ふやうに思ふ理由であります。

（以下次號）

家庭衛生

廢したき事共

小寺照二郎

風俗習慣は一時に改め得べきものでない、又これを改むるには、その利害得失を十分熟考した上でなければならぬ、大抵の風俗習慣は、その國土の事情により最も適當と認められたものであるから、一見不都合の如く思はるゝものも、これを改良しやうと試みて、始めて昔の習慣の却て合理的である事が分かるやうな場合も少なくない、故に妄に從來の習慣を改廢すべきものではないが、衛生上の事の如きは、これまで全く分からなかつた事が、近年に至て學問上明かになつたことが非常に多い爲に、永い間の習慣も、是非廢め度い、或は廢めなければならぬ、

事柄が少なくない、急にと云ふことは六ケしいが、漸次改めるやうに心掛けることが必要である。今試みにこれについて思ひ付く數々を擧げて見ようと思ふ。

一、米、而かも精白米を主食とし、戸毎に毎日飯を炊いて食ふことは、果して衛生上、特に經濟上有利の方法であらうか、これは我邦に於ける大問題であらうと思ふ、今日は尚ほ無理にも斯樣な方法を續けて居るが、決して永くこのまゝでは濟むまいと思ふ、衛生上から、又經濟上から一大改革を要する事柄である、今茲に改良策を講ずることは出來ないが、毎日米の飯を食うて居る人々の一考を要することである。

二、塵埃の多い疊の上に、膝を折つて坐つてゐる事は確に良い生活法ではない、呼吸器の道より病毒を吸込む危險が多い、全身の血行を妨げ、脚の發育を害する。衛生上疊の不都合なことは單にこれのみでない、掃除を完全にすることが出來ない、若し傳染病者などの發した場合には、殆ど消毒のしやうが無い、斯樣な不潔な物の上に直接膳を置いて飲食するは決して安全な方法ではない、これは必ず廢して、他の衛生的の方法を以て代へなければならぬ。

三、痰を庭や往來に吐くことの宜しくないことは近來やかましく云はれるが、未だこの風俗が止まない、最も憂ふべき國民病たる結核は、この咯痰に由て傳播さるゝことが最も多いのであるから、假令自分は結核に罹つて居らぬと信じても、痰を外に吐散らすは、その罪、人を殺すに當ると心得、この惡習慣を根絶しなければならぬ。

四、都會には水道が設備され、或は漸次設備されつつあるが、未だ掘井戸の水を飲用して居る所が頗る多い、斯樣な所では、その井戸を清淨に保つことは勿論であるが、繩や竹竿を手でしごいて水を汲む方法では、決して水の清潔を保つことが出來ない、飲用の井戸は必ず完全に蓋をして、少なくとも喞筒で汲出さなければならぬ。

五、菓子屋、薬茶屋等に於て、その袋を口で吹て菓子や茶を詰める、これは一般に行はれてゐる悪習慣で、その恐るべきことゝ痰を吐くに異らぬ、總て食品を入れる袋を息で膨らすことは商家に於て嚴禁すべきことで、これを取扱ふ小僧或は番頭等に十分訓戒を加ふることが必要である、これは需用者或は買手の方より八ケましく咎め、一方警察の方で取締まらなければならぬ事であらうと思ふ、近頃は、店に出してある食品の容器に蓋をして置くことだけは勵行されて居るやうだが、彼の袋吹きは誰も咎める人が無いと見える、然しその危険は決して食品容器の蓋無しに劣らぬ。

六、熱浴は治療上に時として應用さるゝことはあるが、普通の溫浴の如く毎日行ふべきものでない、然るに我邦の人は兎角熱浴を好む癖がある、殊に所謂江戸兒は熱いのを我慢して熱湯浴するのを自慢にしてゐる、誠に恐しき惡癖である、元來人間の皮膚の溫度は三十三度乃至三十四度である、故にこれより溫度が高くとも低くとも刺戟となる、併し血液の溫度、即ち三十七度までは著しい反應はない、溫浴と稱するのは三十七度までのことであつて、それ以上は熱浴である、熱浴は心臟の働を烈しくし、體內の蛋白質を消耗し、血管及び神經に著しい影響を及ぼすものである、治療上、場合に依ては四十七八度より五十度位までの熱浴を用ふることもあるが、それは特別の場合である、然るに所謂江戸兒式の湯は五十度位の溫度は普通である、毎日此の如き激烈な荒療治を行ふては、健康の者でも害の無い譯はない、特に老人或は心臟や血管に病氣のある者には危險の方法である、熱浴も四十度位に止めて、その以上の熱湯に這入つて煠蛸の如くならねば承知せぬと云ふやうな惡癖は廢めなければならぬ。

七、盃の獻酬、濃茶の飲廻し、吸付け煙草と云ふやうな、口中の黴菌を人から人に移すことの宜しくない、又危險なことは申すまでもないことであるが、尙は人の平氣で行ふことは、小兒に物を咀嚼して與

へ、又は牛乳罎の吸口を吸ひ試みて飲ますことである、これは大人の盃の獻酬などよりは數等非衛生的の惡習慣である、是非止めなければならぬ。

八、手洗鉢の水並にこれに添へてある手拭は少なくとも毎日取換へるのでなければ、寧ろ無い方が遙に衛生的である、柄杓の柄、殊に手拭は恐るべきものである、近頃行はるゝ所の桶の底から水の出るやうになつてゐるものは、從來の手洗鉢よりは餘程良いが、思はしくない、傍で足で蹈めば水が出る仕掛になつて居れば理想的である。

九、郵便切手や状袋の糊を舐めるは惡い癖であるこれと同じく書物を繙けるに、指に唾をつけて開けるは宜しくない習慣である、自分の爲にも他人の爲にも危險な仕業である。

九、數へ立てれば殆ど限りもないが、最後に、道德宗教、風俗、衛生、何れの方面から見ても宜しくない、一大惡習慣と思はるゝのは、死亡者ある人の家に於て、葬儀の際に手傳と稱して、衆人相集つて飲食することである、これは特に田舍に於て甚しい、實際不幸のある家に親切を盡すよりも仇になる方が多い、死者に對する禮とは思へぬことが多い、傳染病の爲に死亡したものゝある家などで飲食することは自分の爲にも危險である、これは是非宗教家、衛生家等が説いて廢めるやうにしなければならぬことと思ふが、總て心ある人は此の習俗を改むるやうに心掛けなければなるまいと思ふ。

口中清潔法

ドクトル志村誠磨氏が大日本私立衛生會雜誌上に於て歯の發育と口中清潔法と云ふことを述べられましたが、誠に懇切に説かれて居ります、今その口中清潔法を抄錄すれば左の如くであります。

小兒の口中及び歯の清潔法

小兒の時代から口腔内や歯の掃除は日々怠つてなりません、未だ歯の生へない初生兒の時代は、授乳し

た後直ちに其兒の口中を掃除してやらぬと恐るべき鵞口瘡(俗に云ふしろした)と云ふ病氣に罹り易いのです。

初生兒の口中を掃除する法は至極簡單なもので、誰方にも容易く出來ます、先づ藥店へ往つてガーゼを一反お求めになり、之れを三四寸四方位の大さに切つて用ゐます、ガーゼは使用前に一旦消毒致さねばなりません、醫者なら消毒器が備へてありますが、素人の家庭には斯くの如き設備のなき故御飯蒸しの道具を用ゐるのが一番簡便です、矢張り御飯を蒸すときのやうに底へ湯を少々入れて其中へ重曹を小匙に二匙か或は三匙入れ、器の中の金網の上へ小さく切つたガーゼを幾枚も入れて十五分間か或は二十分間蒸します、一旦之れで蒸す事を中止し、其儘手を付けずに置き又十分間程過ぎたら更に二十分間程蒸します、斯うすれば消毒は十分に屆きます。

夫れから消毒濟になつたガーゼの取扱ひ方ですが不潔な手をもつて取扱つたり、或は消毒せぬ鋏で切つたりなどしては、折角ガーゼを消毒した甲斐がありません、故に手先は能く石鹼で洗ひ、又消毒濟のガーゼは玻璃の蓋物の中に入れて置き、使用するに際し上から二三枚宛取出しては用ゆるのですが、小兒の口中を掃除する時も必ず自分の手先を清潔にする事を忘れてはなりません。

初生兒の口中を掃除するには、此の消毒ガーゼを右の食指に緩く捲付けて百倍の硼酸水に浸し、先づ口内の右側から差入れて上下顎の内側を能く丁寧に成可く機敏に拭きます、夫れから更に新しきガーゼと取換へて上顎の口蓋骨と舌を丁寧に拭ひ最後に乾いた消毒ガーゼで口中を輕く拭きます。

扨硼酸水の代りに重曹水を用ひても效を奏する事は相等しいのですが、初生兒は未だ唾を吐く事を知らず、唾と共に重曹水の滴を嚥込む故、假令分量は僅少でも一日に幾回となく夫れを胃中に送りこんでは遂に胃を害す故之れは餘程注意しなければならぬ夫れから尚一ツ注意して置きたいのは小兒が追々齒の

生へる時期に達すると齒齦が此處彼處と腫上つたやうになつて來る故、指にガーゼを捲いて口腔内へ插入するとき極く輕く靜にやらないと小兒は兎角痛みを感じます、若し一度誤つて小兒に疼痛の恐れを抱かしむると次回からは之れを嫌つて困るものです小兒が二三歳になつて齒の發生した頃は、未だ中々自分で、掃除する事は出來ぬ故、親達が能く面倒を見て掃除してやらなければならぬが、矢張り此の時代には初生兒と同じ樣に消毒ガーゼで拭つたので宜しい、四五歳の頃になると齒が生え揃つて來るのですから、大人同樣に齒を掃除する事が必要です、夫れは必ず食後に行はなければなりません、多くの人の習慣として朝起きて洗面の際一回齒の掃除をするばかりですが、之れでは實際齒牙の健康を保つ譯には參らぬので、只朝飯が美味しく喰べられると云ふに過ぎない、故に大人と小兒とを問はず食事をした後では直に齒を丁寧に掃除して置かなければなりません、尚此外にも夜分就褥の際に一回含嗽して夫れから枕に就く事は大切なる條件の一つであります。

古人の齒の清潔法

齒は表面のみ純白に磨いた處で夫れで充分に清潔法が届いたとは申されない、大抵の人がブラシ楊枝を使ふときに齒磨粉を附着ては横に磨きます、是れでは齒の表面を白くする丈に止まるので、齒を掃除する方法としては最も不完全極まる磨き方と云はなければならぬ。

總て齒を磨くのは白くすると云ふよりも、寧ろ掃除が能く届いて齒間の殘滓を清く取除くと云ふ意味にあるのですから、ブラシ楊枝を使ふにも此意味に從つて決して横に使ふべきものでなく縱に使ふべき筈のものです、然るに斯く申すと、夫れではブラシ楊枝よりも古來使ひ慣れた房楊枝に越したことはあるまい、一本づゝ齒が縱に磨けて清潔になるからと辯明する人もあらむがブラシ楊枝を縱に使ふと云ふ事は、房楊枝の磨き方と全然趣きを異にするので、即ち上齒は上から下へ向けて、下齒は下から上へ向け

てブラシ楊枝を使ふので、此時ブラシの方向を眞直に齒の表面に向けては其效力が少いから恰も箒で室内を掃く如くに少し毛を寢かせて用ゆるが宜しい斯くの如くすれば啻に齒間の清潔を保ち得るばかりでなく肝腎な齒間の殘滓を除き、掃除が充分に行屆きます。

尙齒の表面を清潔にするばかりでなく、裏面も咀嚼面も斯くの如くして清潔にしなければ健全なる齒牙を養ふ事は出來ません。

齒間の溝を掃除する一法として絹絲を使用します之れは歐米に於ける衞生家の日常實行する方法であるが、先づ絹絲を大凡六七寸の長さに幾筋も切つて之れに熱湯消毒か或は蒸氣消毒を施し、蓋のある玻璃器へ入れて置きます、此絹絲を使用するには兩手の食指に絹絲の兩端を捲付け、之れをピンと張つて齒間へ押込みます、然して後絹絲を上下に動かすので孰方の手か一方を支點にして他の一方を動かすのです、此絹絲掃除ですと何んな小さな殘滓でも綺麗に取除く事が出來て心持ちの宜いものです。

處が茲に注意すべき事は齒間に絹絲を押込むときに誤つて齒齦を傷ける事があります、絹絲が齒間を通過するとき、必ず一箇所絲を支へて其處へ絲が障ります、之れは齒と齒の接觸點卽ちコンタクトポイントと稱する處で換言すれば齒の肩です、其處へ鳥渡絹絲が支へますから、支へるからと云つて力一杯に絲を押込むと、遂に力餘つて齒齦の肉を傷ける事があるから、之れは餘程氣を付けてお使ひなさい。

齒を磨き終り、又絹絲掃除を終へたなら、次には消毒用の含嗽をします、普通の微温湯なり或は冷水なりで含嗽をするばかりでは齒の爲めに誠に效力が薄弱ですから、是非共齒を腐蝕する黴菌を殺して仕舞はなければならぬ、故に米國や英國の家庭に於ては「リステリン」と稱する齒の消毒をする藥を備へて無い處は殆んど無いので、能く下等社會に迄行渡つて居ます、併し日本では未だ此藥を餘り用ゐて居るのを見ませんが、此外に最も簡易なる方法があります

から夫れを實行したら宜いと思ひます、即ち百倍か二百倍の硼酸水を作つて置き夫れで含嗽をします併し尚夫れよりも輕便なるは食鹽水です、食鹽は何處の臺所にも常に備へてあつて、手近に使ふ事も出來ますから夫れを百倍位の微温湯に溶解します、最も大抵は少し鹹味のあるのを程度にして差支なき故却つて人に依つては硼酸水よりも食鹽水の方が輕便だらうと思ひます。

病人の齒の清潔法

健康の時は何人も意の如く口中の掃除も出來ますが、若しも一朝疾病に罹つたときは却々自分の自由に口中迄掃除する事は出來ません故、少し永い病氣で横臥して居ると、遂には口中不潔に流れて齲齒に罹り易くなります、夫れ故看護の任に當るものは病人に對し齒の掃除をする事に努めなければなりません、啻に齒ばかりではなく、舌及び口腔内をば防腐水に浸したガーゼで氣分のよさそうな時を見計らつては丁寧に拭ひ清める事を心懸けられたい、口腔内は實に黴菌の集合所でありますから清潔法を怠るときには、口内にある唾液腺の開口部より不意に黴菌が侵入して唾腺炎を起す場合などもあります、斯ういふ次第ですから病中は務めて口中の掃除を怠らぬやうにしたいものです。

玄米の炊方

精白米よりも寧ろ玄米の方が、衛生上適當であると云ふことは、嘗て本會に於て遠山博士の講演があり、又本誌上にも掲載致しましたから、その理由は既に皆様の御承知のことゝ存じますが、なか〲實行されませぬのは習慣上、又その味の點等からであらうと思ひます、然るに宮里中佐の談に依れば、玄米もその炊方に依ては、決して白米の御飯に劣らぬと云ふことであります、その炊方を御紹介致します。

普通の釜で炊く場合には玄米一升に水を二升一合位入れ蓋は成るべく蒸氣の發散せない様に重き石か何

かを上に乘せ、尙蓋と釜との隙間を濡らした布帛で密閉する必要がある。而して出來る丈火力を强くして時々釜の中を杓子か何かで掻き廻す方が宜しい。斯樣にして炊けば米はフックリと出來上つて其の味は決して白米に劣らぬのである、普通の考へでは玄米の飯は硬ばつて居るかの樣に思はれるだらうが、實際は正反對で恰度糯米の飯の樣に粘るものが出來る、玄米の飯は非常に膨れるから普通の白米よりも其量を減じ得る斯樣な事は私などが喋々と述べ立てるよりも一つ各自無駄だと思つて試して頂きたい。必ず想ひ半に過ぐるものがある。糧秣本廠では蒸氣で炊くのだから是れは御話しても信用の出來ぬ程結構に出來る、併し普通の家庭では矢張通常の釜で炊く樣にせなければならぬ、私は炊き方並に釜等も充分に研究した上で然るべき改良を加へたいと思うて居る。



○東京市の結核豫防施設

東京市にては遠山博士の熱心なる主唱に依り、率先して結核豫防事業に著手し、他市にもこれが範を示さんとの議あり、同博士の提案は頗る精細を極め、學說上にも將た實地上にも遺算なきものなれども、諸種の事情の爲に今直ちに著手し難きものあり、然ればとて是の緊急の事業を放擲すべきにあらざれば、差當り先づ實行し得べきものより、著手することに決し、左記三項を擇で、その經費を市參事會に諮り、承認を得たれば更に之を市會に提案したりと云ふ

一、結核患者喀痰の消毒

同患者ある家の依賴に依り、各戶に對し人夫を巡回せしめて喀痰を蒐集し、市消毒所にて消毒燒却する事、喀壺は其の適當なる

ものを市より讓め貸附し、日々別器と交換すること、但し貧困者にあらざれば相当實費を徴收すること

二、結核病死者を出したる場合、家屋、寢具、什器の消毒

結核病患者の死亡ありたる場合、家人の請求に應じ若くは區吏員之を勸誘して家屋、寢具竝に什器、他の物件に對し、市消毒班を派遣して消毒に從事せしむること、これが費用として一戸より金五拾錢乃至壹圓を徴するも、貧困者はこれを免除すること

三、移轉家屋の消毒

一般市民の移轉に際し、其の希望に依り移轉先の消毒を施行すること、但し適宜料金を徴すること

○年少女子の危險事項

歐米諸國に於ては近來、惡漢の爲に少女の誘拐さるるもの夥しく眞に戰慄すべき狀況を呈せり。然ればこれが爲に各種の救助保護會設立せられつゝあり、今その一例として英國に於ける救助保護會が年少女子に對する危險事項として公示せる所を擧ぐれば、左の如し。

一、年少女子は、街上、商店、停車場、汽車中、寂しき田舍道又は娯樂場等に於て、男子たると女子たるとを問はず、未知者に言語を交ふべからず。

一、年少女子は、職務中の警官鐵道官吏又は郵便夫等以外の者に途を尋ぬべからず。

三、年少女子は、單獨にて街上を徘徊し又は佇立すべからず、而して男女を問はず未知者より發言せられたる場合には、迅速に最寄の警官迄馳せ行くべし。

四、年少女子は、街上に於て一見倒れ自失せる如き婦人を認めたる場合と雖も、其者を救助せんが爲め手を下すべからず、直ちに警官を呼びて救助を求むべし。

五、年少女子は、未知者より日曜學校又は聖書講義會等に招待せらるゝも、出席すべからず、而して其未知者は女牧師の服裝をなせる場合と雖も亦同じ。

六、年少女子は、自働車、乘合自働車、馬車、電車等に乘り降りの際、未知者の助力を受くべからず。

七、年少女子は、未知者より告げられたる場所又は其招待に應じて、料理店、娯樂場へ立入るべからず。

八、年少女子は、病院看護婦の服裝をなせるものと雖も、未知者たる者とは何處へも同行すべからず、又彼等の親族が不慮の災害により、苦難し又は突然病氣となれり等の、話をせらるゝも、信ずべからず、之れ年少女子を誘拐せんとする通常の策略なればなり。

九、年少女子は、未知者より菓子、食物、水、切花等を與へらるゝも受領すべからず、又未知者の商店に於て、香料其他のものを購買すべからず、之れ斯かる品物は藥材を含むを以てなり。

十、年少女子は、倫敦市ストランド十六番地、國民警戒協會に問合す事なくして、英國又は外國に於て新聞紙上の報告又は怪しき職業紹介所等より、地位を得べからず。

十一、年少女子は、安全なる宿泊所を知らずして一夜たりとも倫敦又は其他の大都市に行くべからず。

○第六回兒童博覽會

兒童博覽會が江湖の稱賛を博して回を累ぬること既に五次、男女兒童の教養上多大の效果を收め得たることは汎く知らるゝ所なるが。今回は大阪三越呉服店内に於て。その第六回を開催すべしと、その規定左の如し。

第六回兒童博覽會規定

一、第六回兒童博覽會は來る四月十日より五月十日まで大阪三越呉服店特設陳列場に於て之を開く

一、第六回兒童博覽會に陳列すべき物品は左の各種とす

(一)人形、玩具、恩物等、(二)圖書、繪畫、寫眞其他印刷物、(三)和洋服及び附屬品一切、(四)帽子、靴、下駄、草履及び附屬品、(五)小間物、化粧品及び造花類、(六)洋傘、袋物其他携帶品一切、(七)乳母車、其他乘物類、(八)學校用品及び文房具類、(九)體育運動具、(十)和洋樂器及び附屬品、(十一)理化、博物、歷史等の標本建物、機械、船舶、武器等の模型又は標本(十二)保育用及び教育用機械、器具

一、本會に出品御希望の方は來る三月十日迄に大阪市東區高麗橋三越呉服店内第六回兒童博覽會出品係へ御申込あるべし

一、出品御申込の際には別紙出品明細書に品名員數作所姓名等洩れなく御記入の上出品係へ御差出し相成りたし

一、出品は三月二十日限り相違なく出品係へ御送附ありたし

一、出品者の製作にあらざる物品には製作者の住所姓名を附記せられたし

一、賣品にあらざる出品には非賣品と記入せられたし

一、出品は出品係に於て鑑別の上本會の趣旨に適合せざるもの容積過大なるもの、若くは陳列保存に差支あるものと認むるときは採用せざることあるべし

一、出品の陳列及び之れに關する費用は本會に於て負擔すべし、但し運賃其他運搬に要する費用は出品者の自辨とす

一、出品多數にして同時に陳列し能はざるときは本會は隨時陳列品の撤去若くは交換を行ふことあるべし

一、出品は非賣品の外即賣するものなれば出品係より補充又は代品の出品を請求するときは直ちに之に應じ得るやう準備せられたし

一、出品は本會審査委員に於て審査の上優等品に對しては賞品又は賞狀を贈呈すべし但し審査を希望せられざるものは此の限にあらず

切紙貼繪の懸賞募集

四月十日から開きます第六回兒童博覽會では皆樣が學校で御習ひ

なる切紙貼繪の懸賞募集を致します

懸募の資格　は尋常小學校六年生以下の少年少女

題　　山（第一年級）　軍艦（第二年級）
　　　海（第三年級）　猫（第四年級）
　　　虎（第五年級）　城（第六年級）

用　　紙　白畫用紙八ツ切（學校用）、その左の端へ必ず學校の名、級名、住所、姓名年齡をかくこと

繪の色數　色紙は何枚でも構ひません綺麗なほどよろしい

公　　與　一等（六名）二等（十二名）三等（十八名）四等（六十名）五等（百二十名）

賞　　品　はいゝもの

審　　査　は東京兒童用品研究會及大阪こども研究會の諸先生

當選貼繪　の一等から三等までは會場内に陳列します

締切日限　は三月十日

届　　先　は「大阪市東區高麗橋二丁目三越吳服店内第六回兒童博覽會事務所」それからその脇へ朱で「募集繪」と添書すること

○通俗「トラホーム」唱歌

島根縣八東郡醫師會にては「トラホーム」豫防に關する、知識を普及せしむるの目的を以て、左の如き通俗唱歌を作製したりと云ふ。

ト、「トラホーム」といふ眼病は　眼病中の惡病よ
　撲滅までおくときは　國の仇ともなりぬべし
ラ、傳染病菌怖けれど　轉瞬間に蔓延りて
　人を傷ふ害毒は　一入こわし「トラホーム」
ホ、細き小さき顆粒は　眼瞼の裏に叢々と
　例之ていへば鮭子か　赤き覆盆子にさも似たり
ム、叢り發生し「トラホーム」　はじめは痒く摩擦うち
　終には角膜に懸かゝり　盲目となるも稀ならじ
ヨ、豫防の法に努めなば　かく恐ろしき眼病も
　避けぬことのあるべきぞ　努め怠るな豫防法
バ、バケツ、ハンカチ、洗面器　其他患者の手や顔や
　殊に眼を拭く手拭を　倶に使用へば直ぐ感染る
ウ、感染らぬ先に防ぐこそ　これぞ眞正の豫防なれ
　あわれ世間の父母よ　まづ家庭より注意せよ
ナ、幼稚小兒の集合れる　學校などはなほさらに
　流行感染のせぬように　注意監督おこたるな
レ、療治はとかく遅れがち　眼脂眼かすみ痒くなり
　わけてコロ／＼する時は　速に診察うけて看よ
ウ、運惡くしてうつりなば　其身自愛はいわずもよ
　家族や他人に遠慮して　早く治療をして癒せ

○女學生の食量

大阪市夕陽丘高等女學校に於ける學生家庭の食物の分量を調査したる結果によれば、一般に、五年前のものに比すれば、滋養を主とし、且其分量は、朝は

平均七勺強、晝は九勺強、晩は一合弱にして然して辨當なれば、平均六勺強なり、故に、數年前の平均四勺に比すれば、大に增加せるを見る。而して、最近、東京に於ける女學生の辨當を調査せる平均四勺強と較ぶるに阪地の方多量なるを見るべしといふ。

廣告

○婦人衞生會講師招待會

私立大日本婦人衞生會に於ては、曩に同會の爲に講演せられたる講師に對して謝意を表し併せて將來の援助を請はむが爲に、去る七日麹町區富士見軒に於て午後六時より晩餐會を催せり、講師側に於ては丹波、田代、岡田、栗本、遠山、二木、吉井、相馬、樋口、千葉の諸博士、富士川、藤浪、石橋等のドクトルを賓客とし、宴を開くや會長鍋島侯爵夫人、副會長濱尾男爵夫人を始め幹事評議員、各々其間に席を占め、頗る華やかに賑はしき宴會なりき、初めに會長の挨拶あり、宴酣にして、丹波博士は講師一同を代表して謝辭を述べ、本會の益々盛ならんことを冀望し、宴終らんとする頃、岡田博士は、東京市結核豫防會の理事として遠山博士を紹介し、これに依て同博士は、結核豫防の急務を說き、婦人衞生會の助力を望む旨を陳述せられたり、宴終りて後、別室に於て種々有益の談話あり、主客互に歡を盡して散會せるは午後九時頃なりき。

○本會入會者

○事務所申込

●神田區東猿樂町六岩井北太郎方　通常會員　藤田千代子

●愛媛縣川本赤十字社愛媛支部病院　通常會員　俊野いわ子

●朝鮮大邱幸町　通常會員　松本貞子

○轉居

●小石川區水道町三五へ　三井五十子

●長野縣下水內郡飯山町宮倉炭坑へ　佐藤澄子

●名古屋市中區矢場町五切三番地六七二　杉山峯子

▲十五回衛生事務講習生募集▼

一講習期　自大正三年七月一日
　　　　　至大正三年九月三十日

一募集人員　五十名

一講習科目　衛生學大意、衛生統計ノ大意、衛生ニ關スル法令、微菌學大意、傳染病豫防消毒實施法、船舶汽車檢疫傳染病院構造及取締法、營造物及飲食物檢査法大意、衛生ニ關スル營造物及工事ノ實施、救急法大意、科外講義

一講習科　金拾圓

一申込期限　大正三年六月十五日迄

大正三年三月

東京市麹町區大手町一丁目

大日本私立衛生會

注意
募集定員ニ超過シタルトキハ入所ヲ謝絶スルコトアルベシ
規則書入用ノ方ハ郵券貳錢同封申込マルベシ

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山本多穂子
同 松平芳子
評議員 石川貞子
同 濱田拾子
同 服部繁子
同 西外子
同 緒方悅子
同 小川孝子
同 片山龜子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部殷子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮下咲子

同 羽田三緒子
同 高木鏘子
同 三浦敬子
同 岩下ゆか子
同 長谷川仲子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 吉武輝枝子
同 高橋孝子
同 鶴原誠子
同 中濱芳子
同 子爵夫人 松井正子
同 伯爵夫人 阿部篤子
同 菊池粲子
同 宮本樂子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價		
一冊	定價金貳拾錢	郵稅壹錢
三冊（三ヶ月分）	前金郵稅共	金四拾五錢
十二冊（一ヶ年分）	前金郵稅共	金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字

壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢

○特別廣告壹頁金拾圓 半頁金五圓

○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正三年三月二十二日印刷
大正三年三月二十五日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區根津西須賀町九番地 莊司秋次郎

印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 今井甚太郎

印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林舍

發行所 東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地 私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鈴屋町 良明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區呉服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

醫學博士弘田長先生題
醫學博士唐澤光德先生著

育兒の話

◉前編
◉後編續出

◉袖珍型本綴美麗
◉全文總振かな附

▼正價金參拾五錢
▼郵税金貳錢

哺乳兒時期に死亡するもの最も多きは統計表の示す所、其原因多くは育兒の方法其宜しきを得ざるに由るものにして小にして一家庭の悲哀を起し、大にしては我日本帝國の消長に關す育兒の法豈等閑に附すべけんや、弊舗茲に見る所あり今回唐澤博士に乞ひ、本書を公にするの光榮を得たり、本書は言文一致體にして頗る平易なる文字より成り、説く所亦實行的なれば婦女子と雖も了解し易く、醫家も亦本書に由り成書に記載なき治療上の注意を見出し、益を得ること尠からざるべしと信ず

楠田謙藏先生述
鈴木准二先生編
(菊判假綴美装)

婦人の衞生

◉全一册

◉木版圖畫十二插入
◉全文總ふりかな附

▼正價金四拾錢
▼郵税金四錢

此書は婦人の月經時・婚嫁時・妊娠時・分娩時・産褥時竝に其固有の疾病時に當りて注意すべき事柄を漏すことなく記述し之に附するに小兒の保育上の注意疾病時の注意を以てしたるものにして婦人は此記述に準じて自愛するときは庶幾くは其健康を保持し且愛兒を適當に保育することを得ん此書に類したる名を負せて世に出すところの書册に比すれば其所述に於て其優美にして卑猥ならざる點に於て少しく撰を異にするところあるを信ず

發行所 振替東京一四一八番 東京本郷區龍岡町 電話下谷二七六一 吐鳳堂書店